



欲求不満なようです

ごなりの人妻は

基本CG 24枚
合計 96枚

ボクの隣に住む夫婦は
毎晩お盛んだった

あんっ…

あっ…
あっ♡

こゝろこゝろ♡

ボクはその声を壁越しに聞きながら
オナニーするのが日課だった

おんこおんこ

ところがここ最近
隣の部屋から喘ぎ声
聞こえなくなっていた

シシ…

どうやらレスみたいなので
ボクは思い切つて声をかけてみた

「え、今からですか!？」

はい

「でも、もうすぐ夫が帰ってくる
時間だし…」

すぐ帰りますから

「で、でも…」

大丈夫、変なことはしませんから

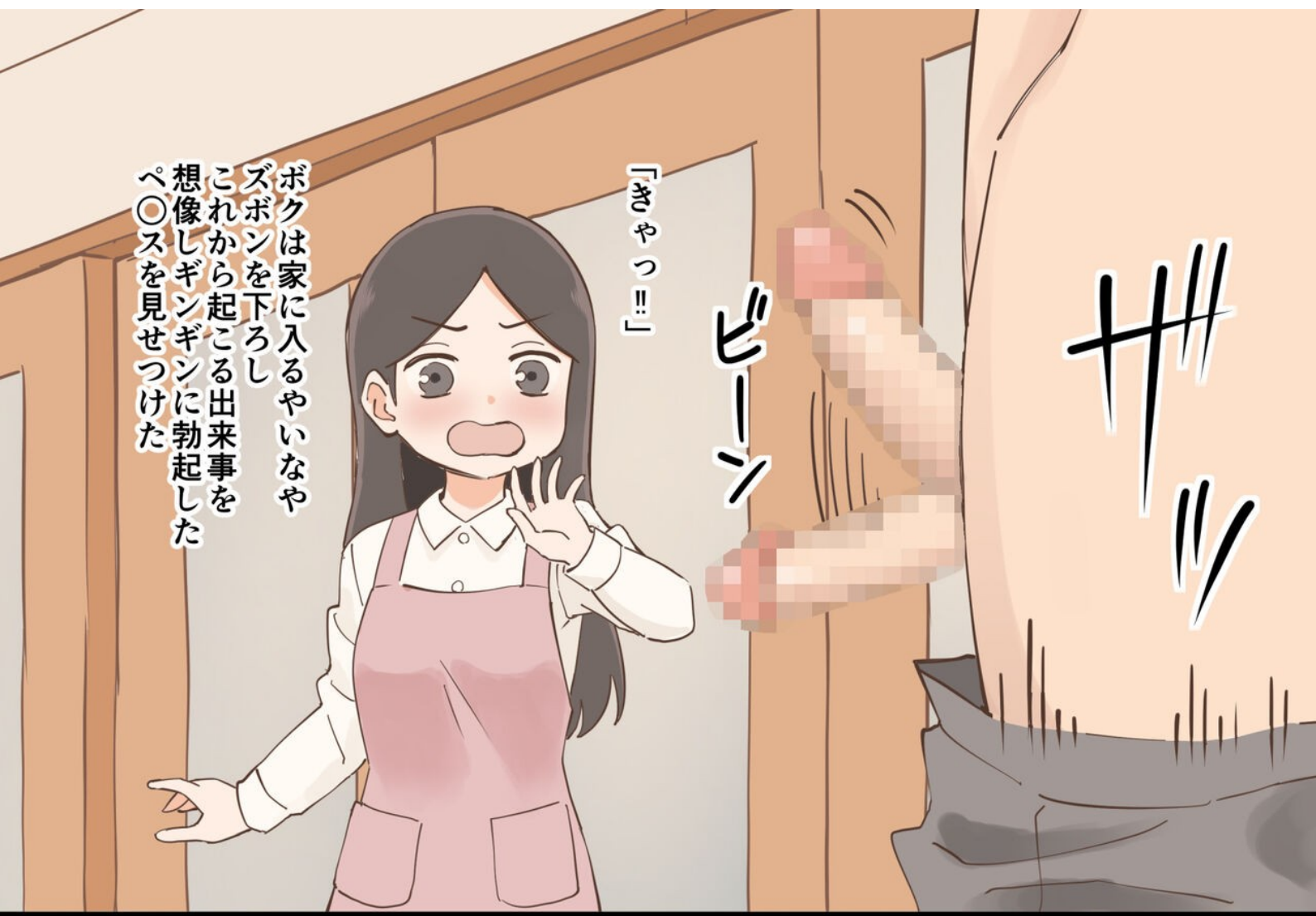
「……
それならいいですよ」

ほんとですか!?
うれしいです

「ちよつとだけですよ」

そう言った彼女の顔は
何かを期待している
ようにも見えた

こうしてボクは
夫不在の人妻の家に
上がりこむことに成功した
もちろん、変なことはしない
というのは嘘だ



「ギョッ!!」

ズン

ザッ!!

ボクは家に入るやいなや
ズボンを下ろし
これから起こる出来事を
想像しギンギンに勃起した
ペ○スを見せつけた



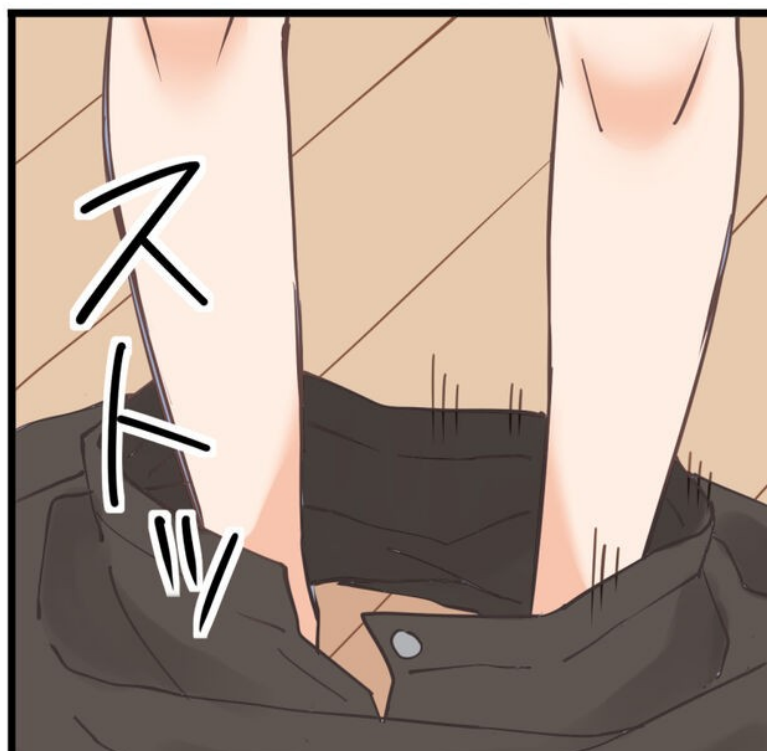
「い、いきなり
何してるんですか!」

いやそんな反応を示したものの
彼女の目はボクのペ○スから
一度も目を離さなかった
そのことをボクは見逃さなかった

「だ、だめです…」

その言葉とは裏腹に
体の方は無抵抗だった

どんどん露わになっていく
彼女の柔肌に今すぐ
しゃぶりつきたい欲求を
抑えるのに必死だった





そこには生まれたままの姿で
恥ずかしそうにこちらを見ている
人妻の姿があった



本当は一生見ることはない、
見てはいけないはずの
人妻の裸…

ボクは背徳感でさらに興奮した

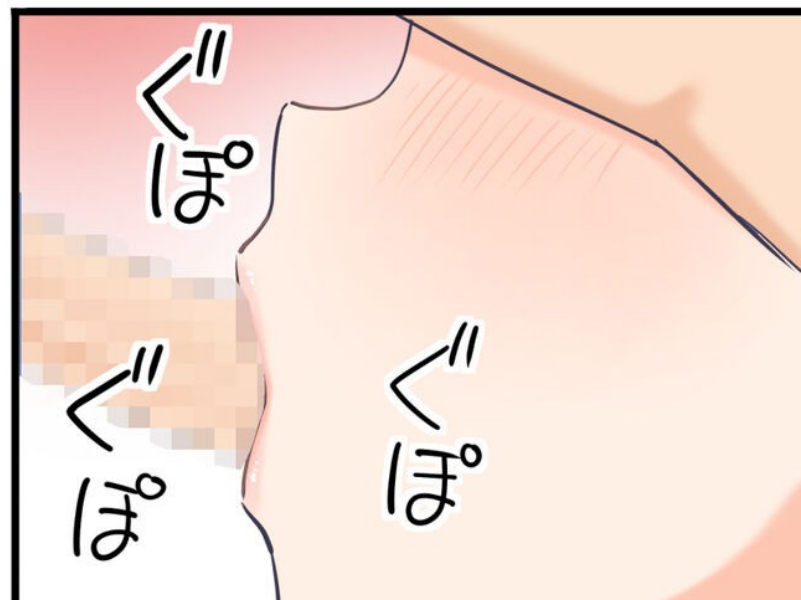
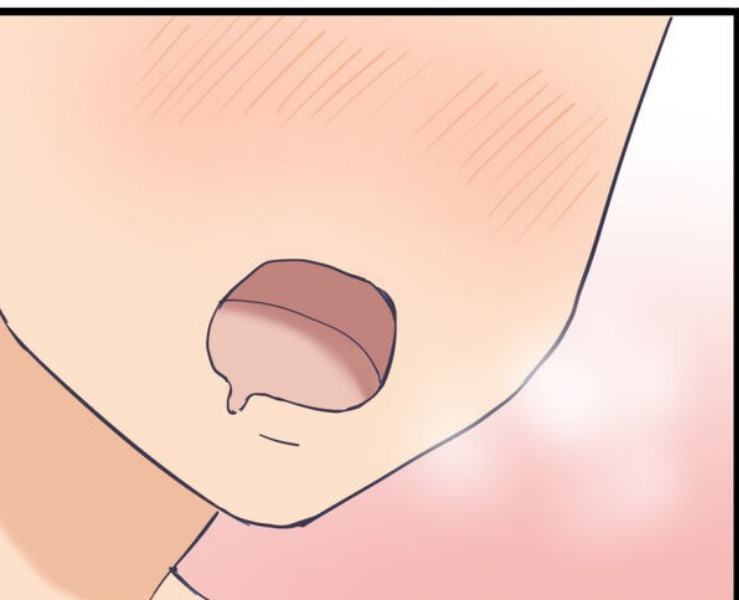
「好きにしていますよ」

ボクがそう言うと
彼女は恥じらいながらも
嬉しそうにボクのペ○スを
舐め始めた



ボクは無我夢中で
腰を振った

ねっとり温かい口内で
舌がいやらしく絡みつくとたび
イキそうになった

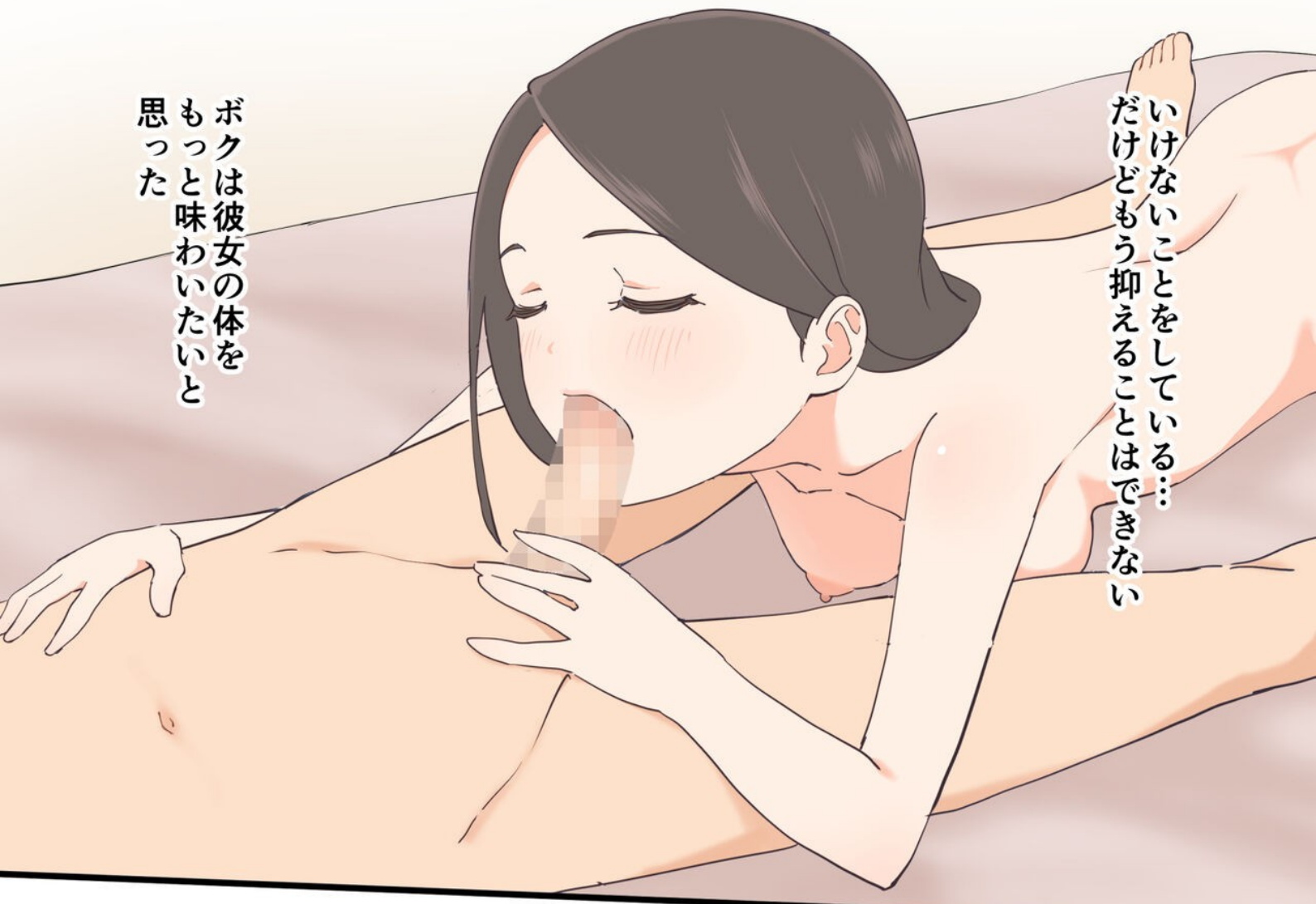




彼女はそれを
とてもおいしそうに
飲み込んでいた

ボクは
思いつきり口の中に
射精した





いけないことをしている…
だけでも抑えることはできない

ボクは彼女の体を
もっと味わいたいと
思った



「え…ま〇こが見たい…?」

れろ♡

れろ♡

彼女はボクのペ〇スを
くわえたまま
旦那に何十回、
何百回と犯された
使い込まれたま〇こを
見せてくれた



頭の中がま○こでいっぱいになった

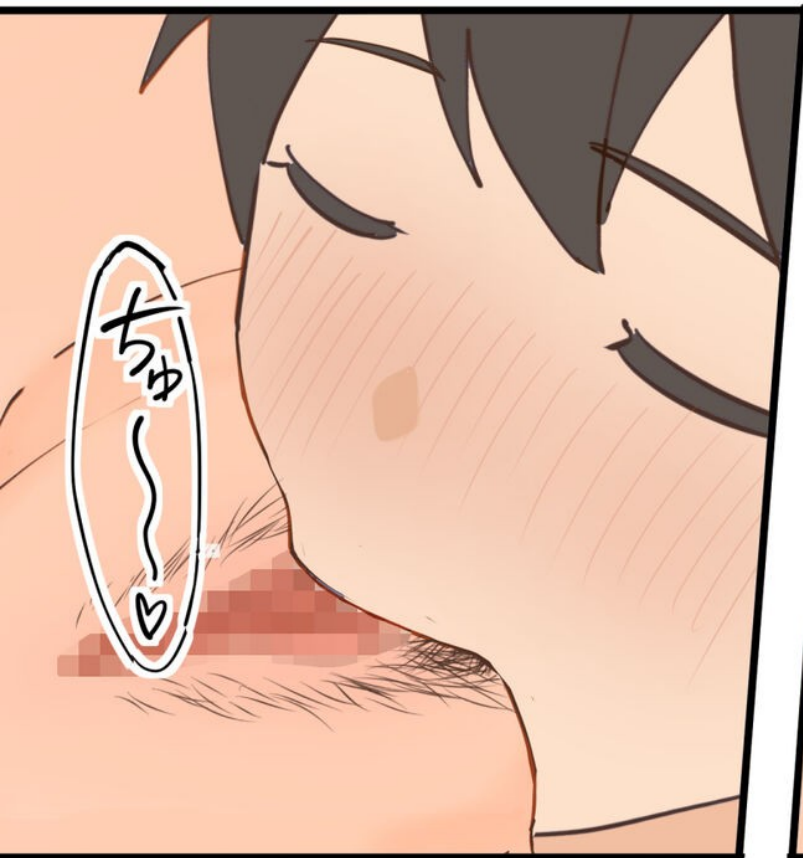
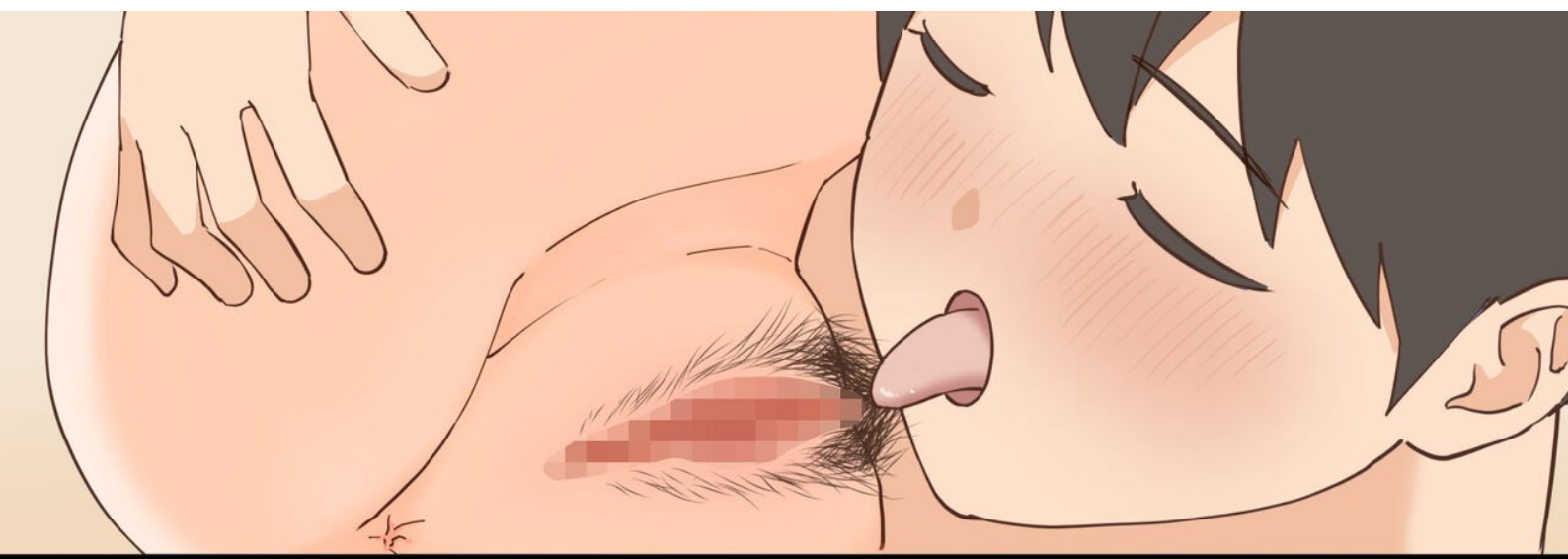


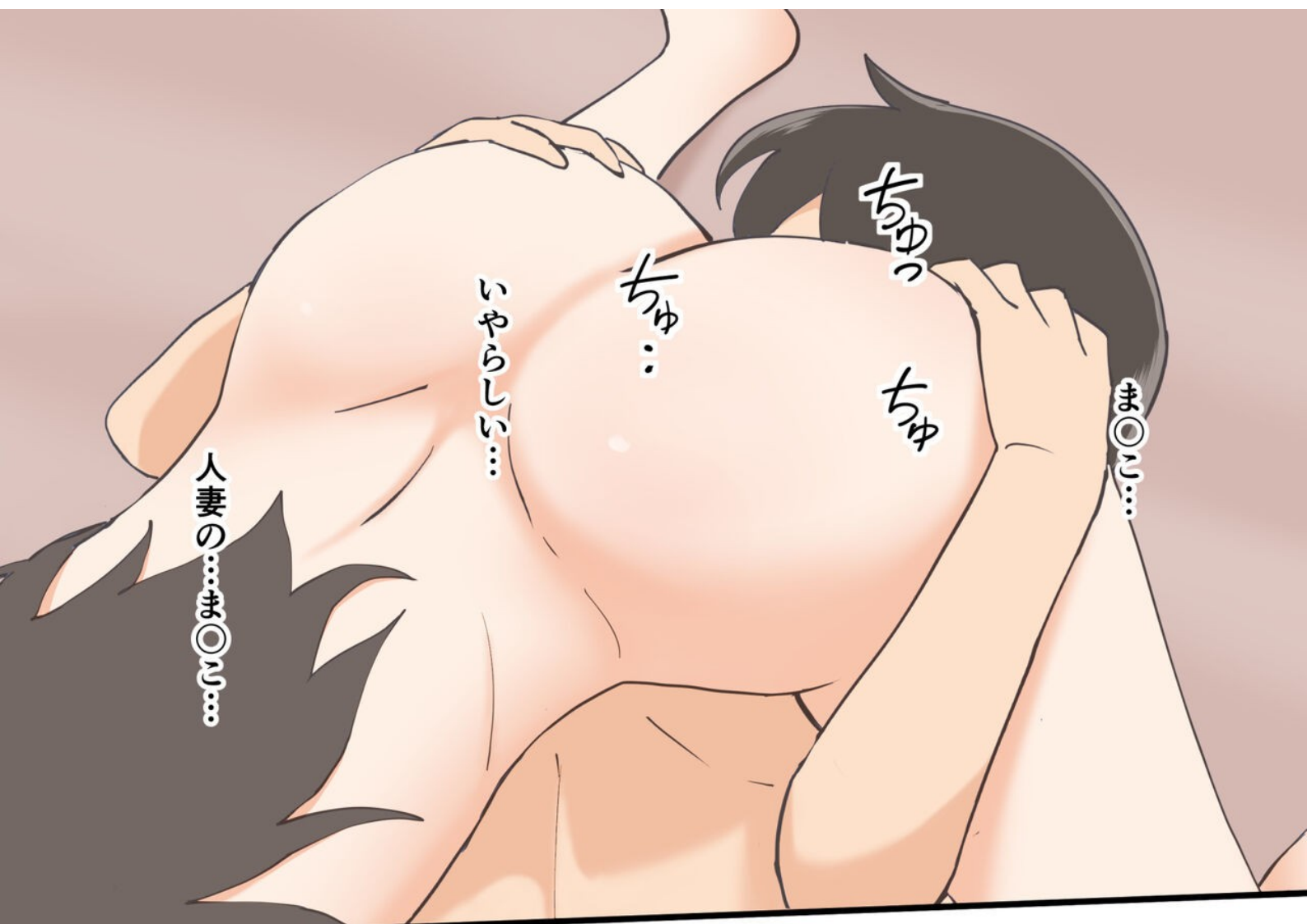
もっと味わいたい

これが人妻の味…

ものすごくいやらしい味がした







人妻の...ま〇ん...

いやらしい...

ちゅっ

ちゅっ

ちゅ

ま〇ん...



ボクはひたすら目の前に広がる卑猥な穴を貪り続けた

ちゅっ

しゅるる...

旦那以外の男の精液を
彼女は一滴漏らさず飲み込んだ

欲望のままに射精すると
いつも旦那と寝ている
ベッドの上で



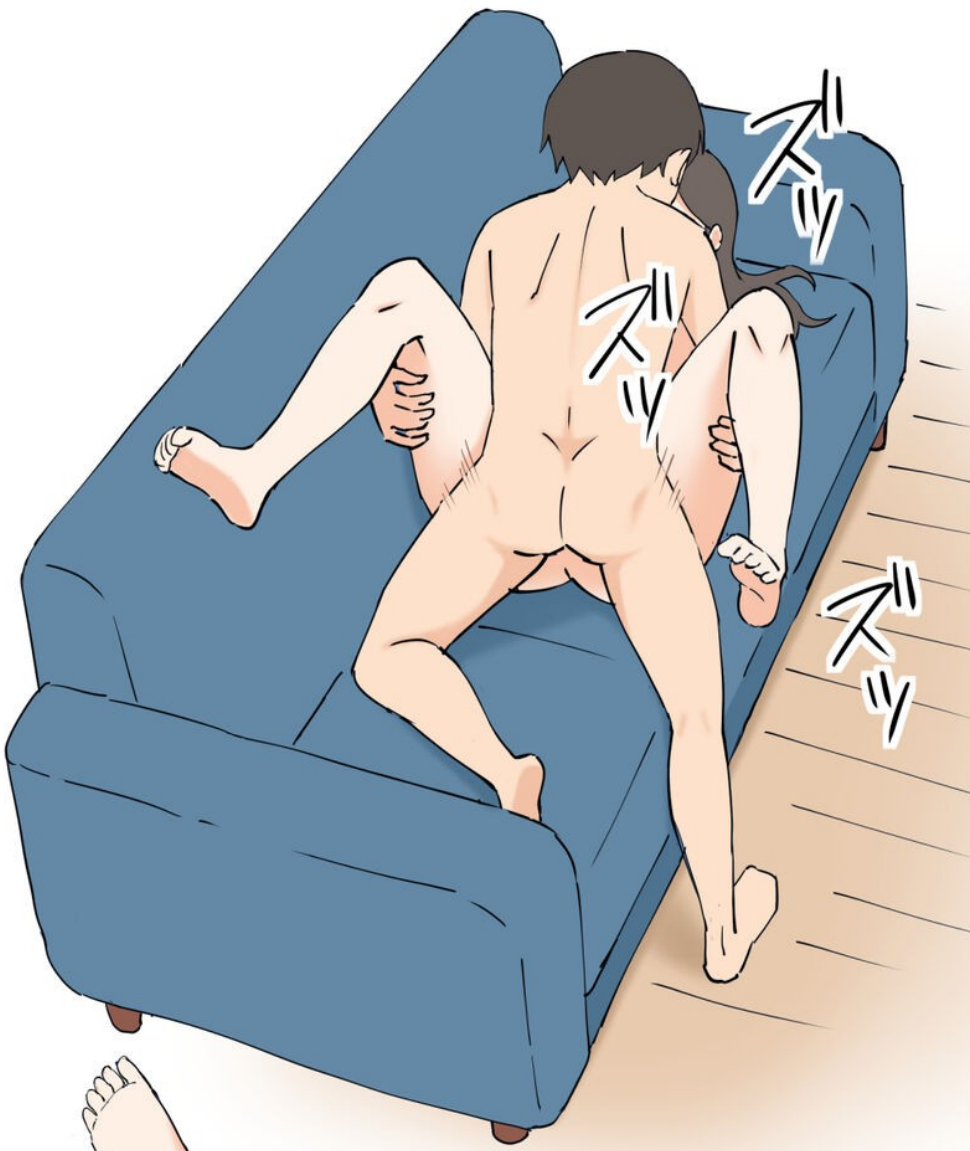
今日は旦那が寝室で寝ている
そう考えると背徳感で
より一層興奮した

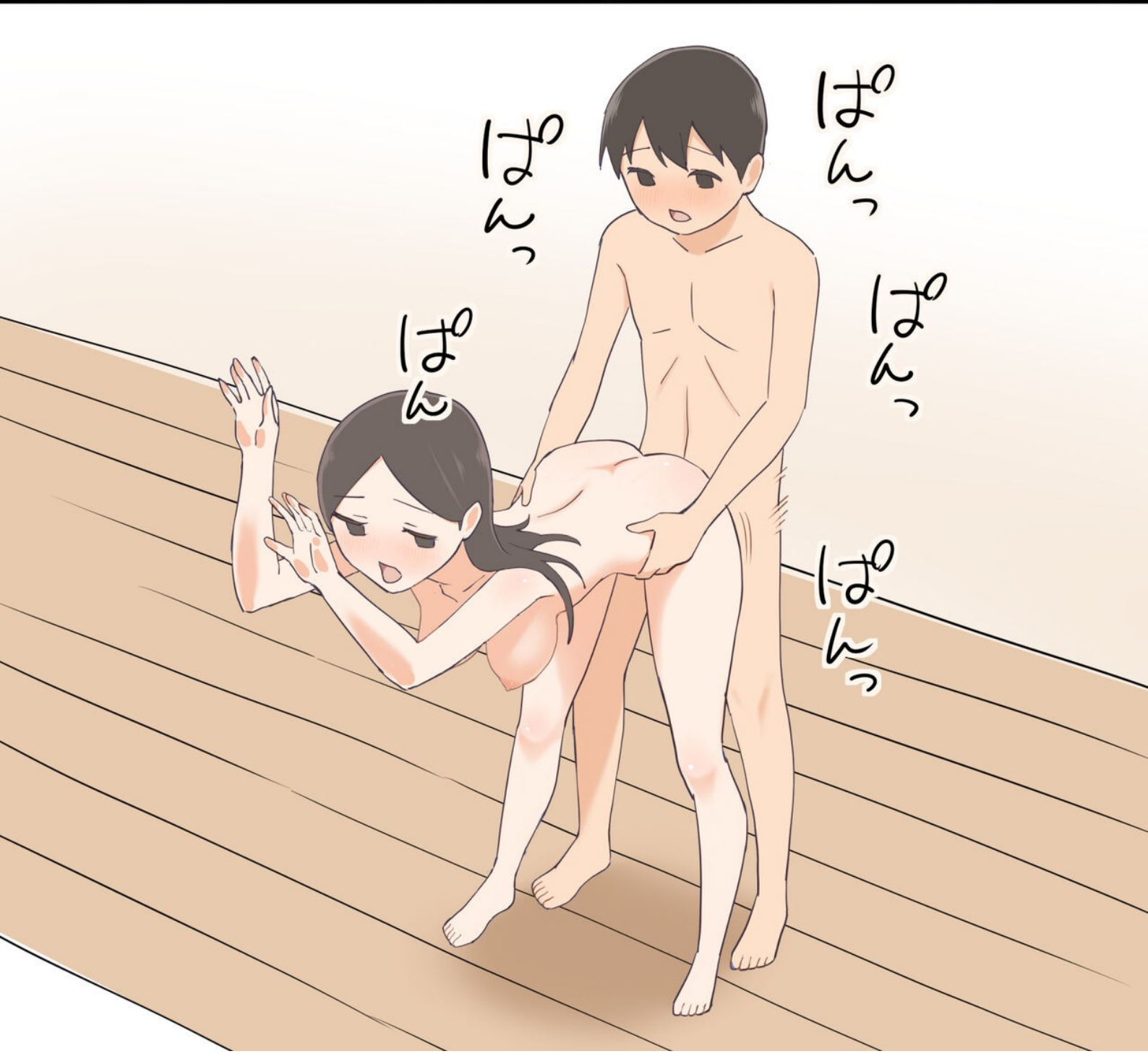
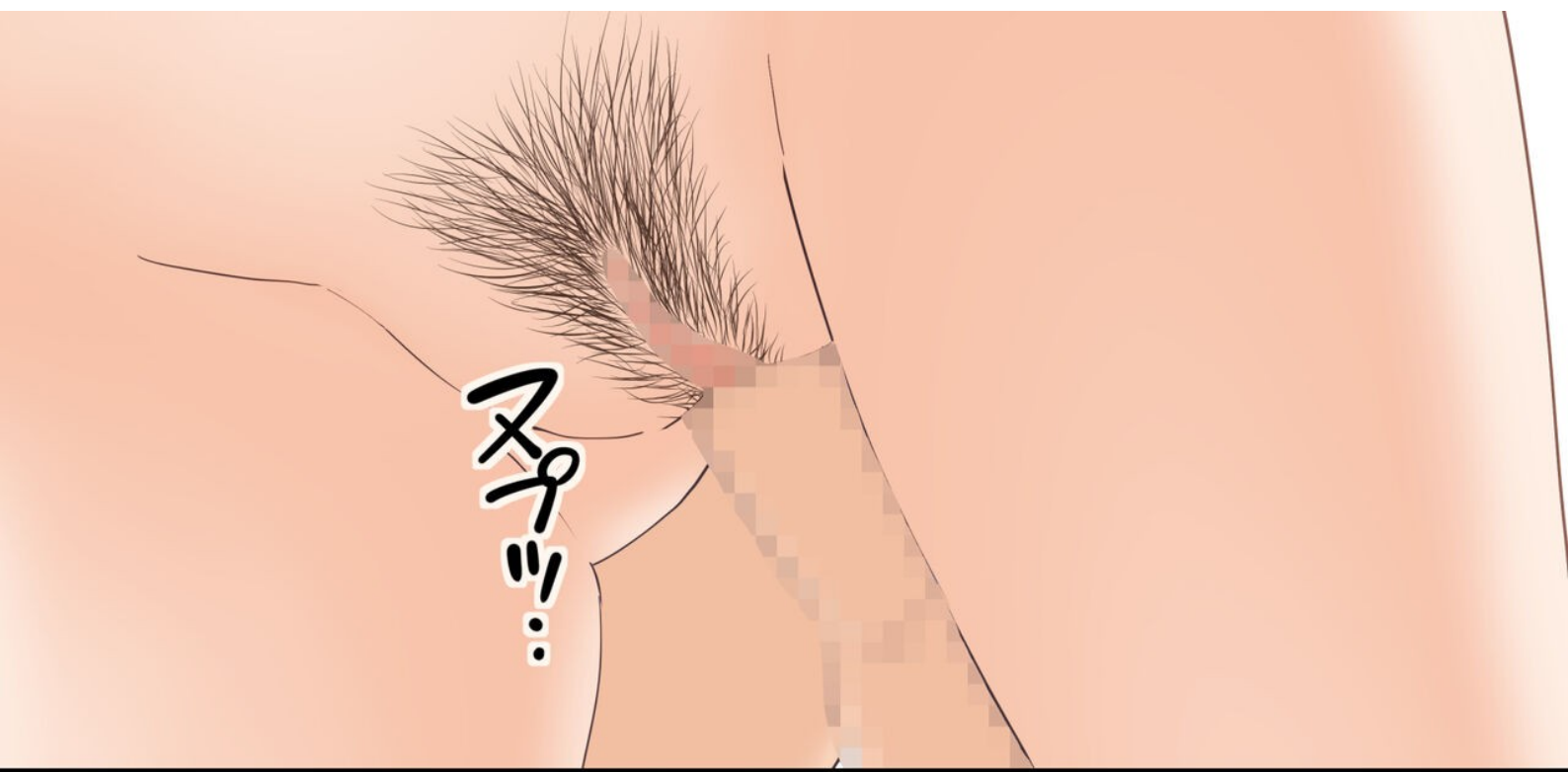


ボクはそのまま彼女の膣内に射精した

初めて味わう人妻の体は
得も言われぬ心地だった

それからボクは欲望のまま
彼女とセックスした
彼女もまた、欲望のままに
ボクを受け入れた





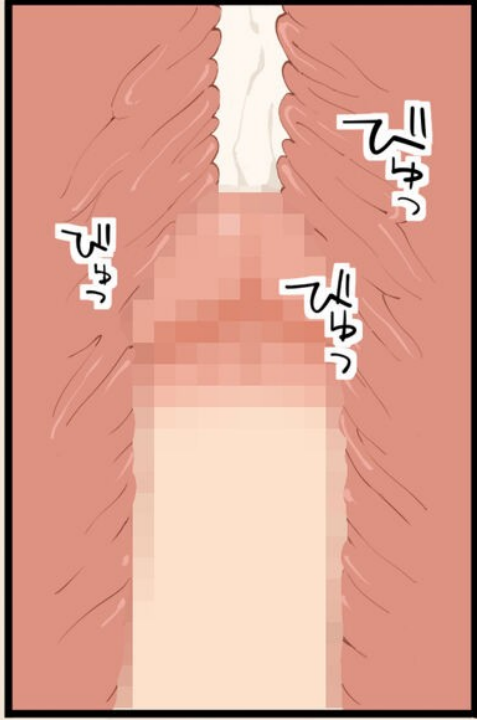
キッチンで、ソファの上で
寝室前の廊下で...

ボクたちは所かまわず
セックスした



寝室へとやってきたボクらは
まるで見せつけるかのように
激しくいやらしい音を立てながら
寝ている旦那の目の前で
彼女のま○こを犯した





ニヤニヤ

ニヤニヤ

ニヤニヤ

ニヤニヤ

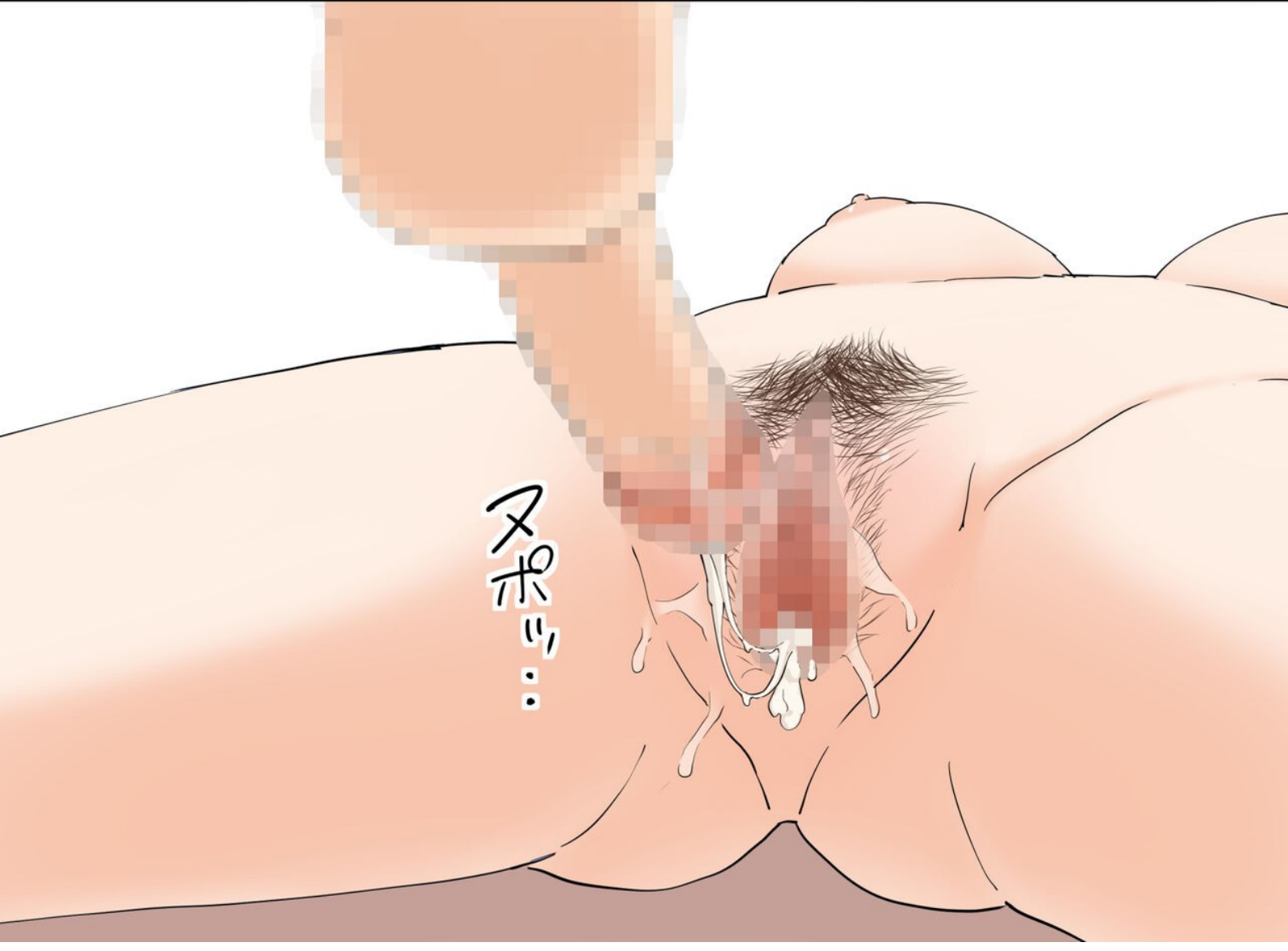
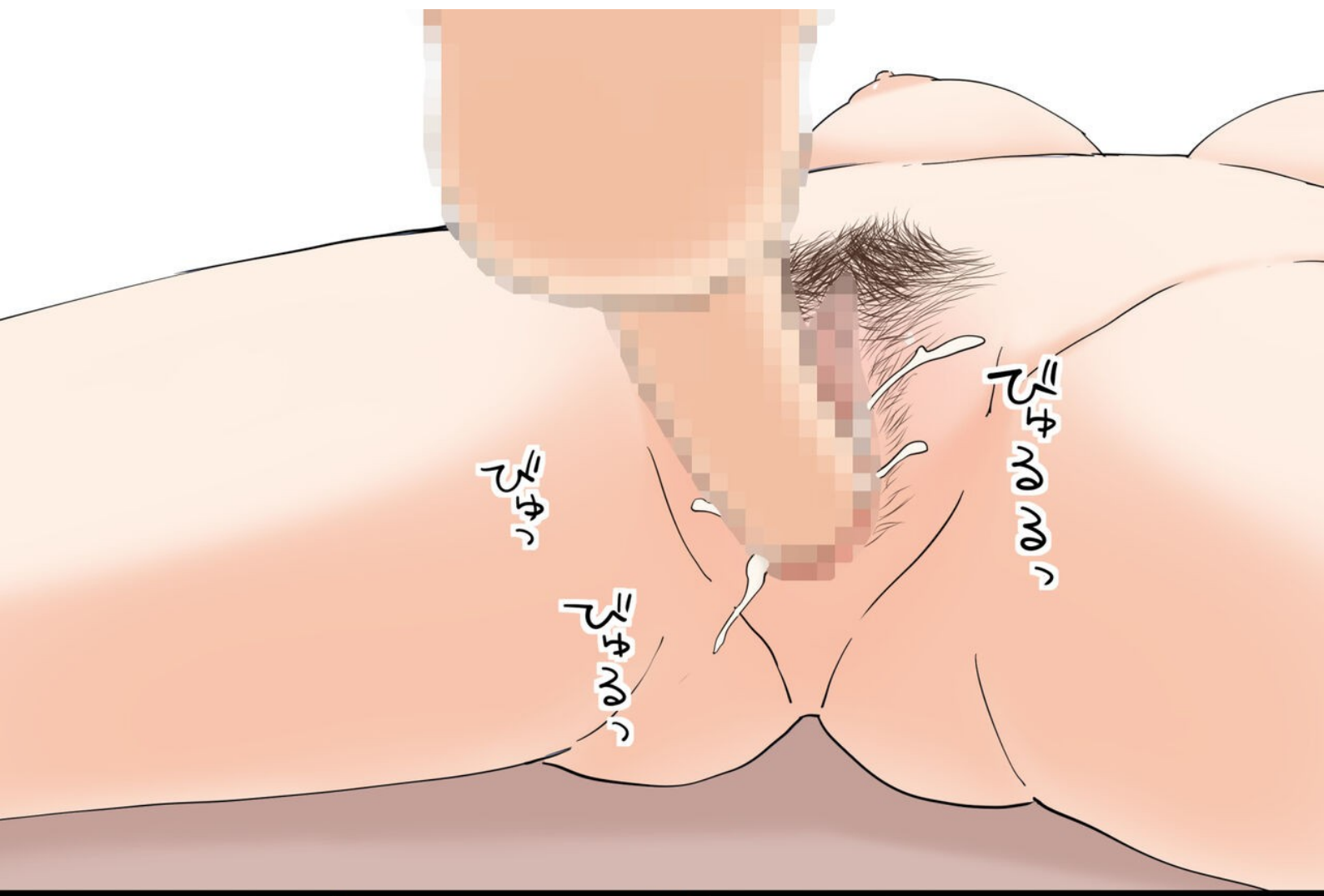
ニヤニヤ

何度も何度も…

ズッ
ズッ

旦那が寝ているすぐ横で
彼女の体はボクのものだと
言わんばかりに
夢中でセックスした





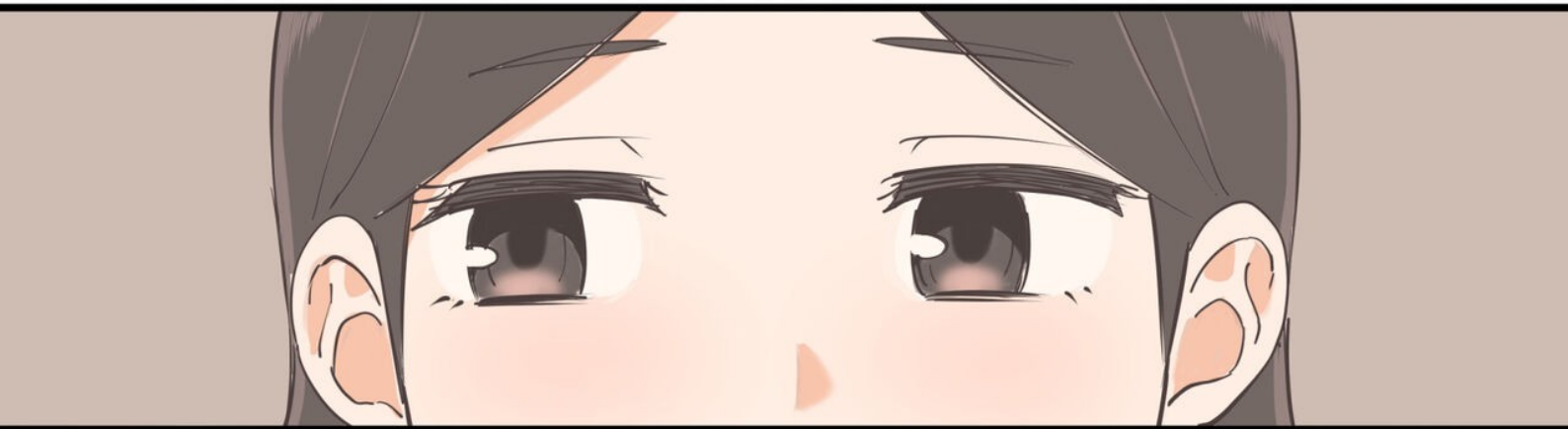
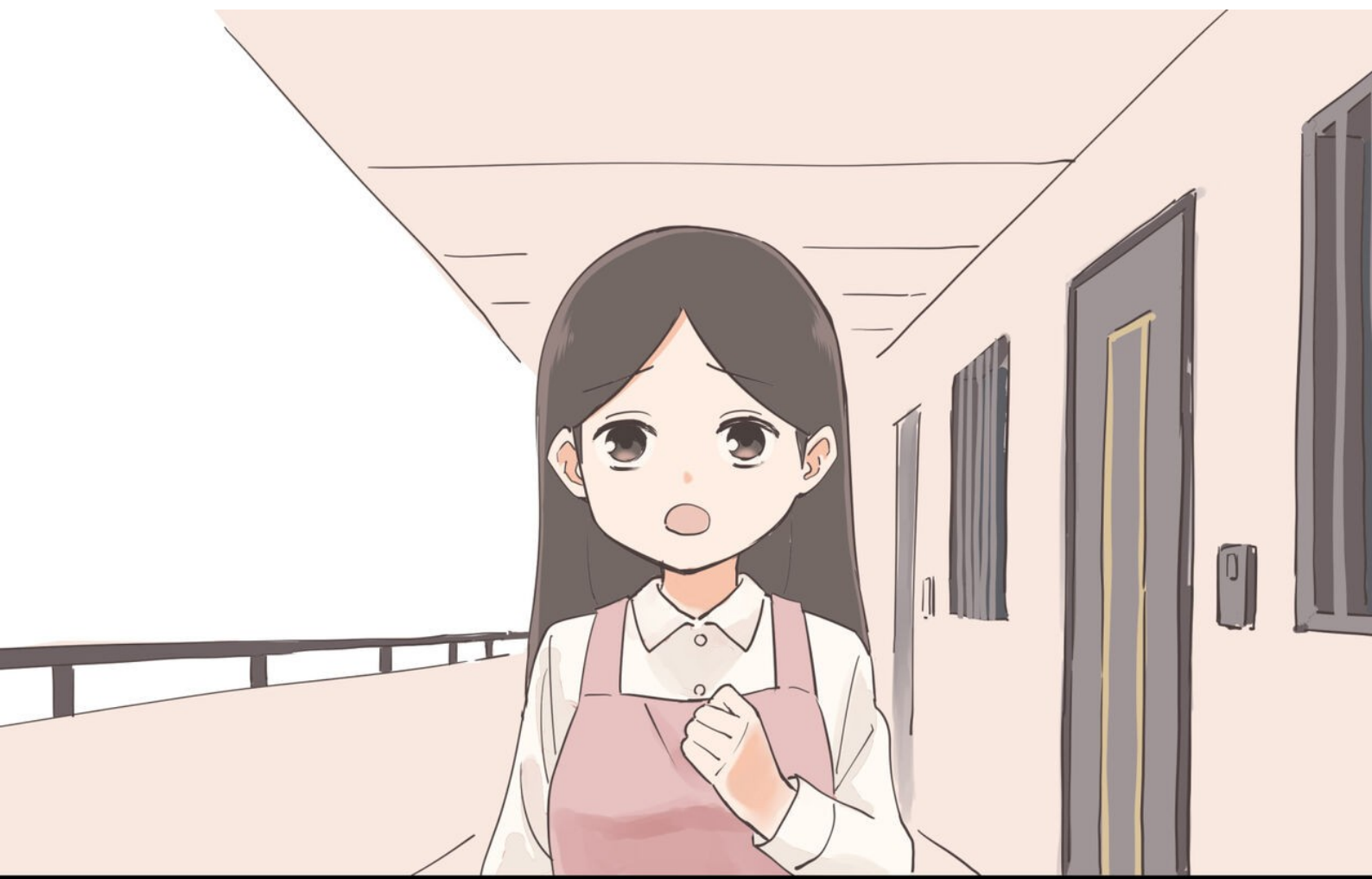
他の男の精液を垂らしながら
旦那の隣に横たわる彼女の姿を
ボクはしっかりと目に焼き付けた

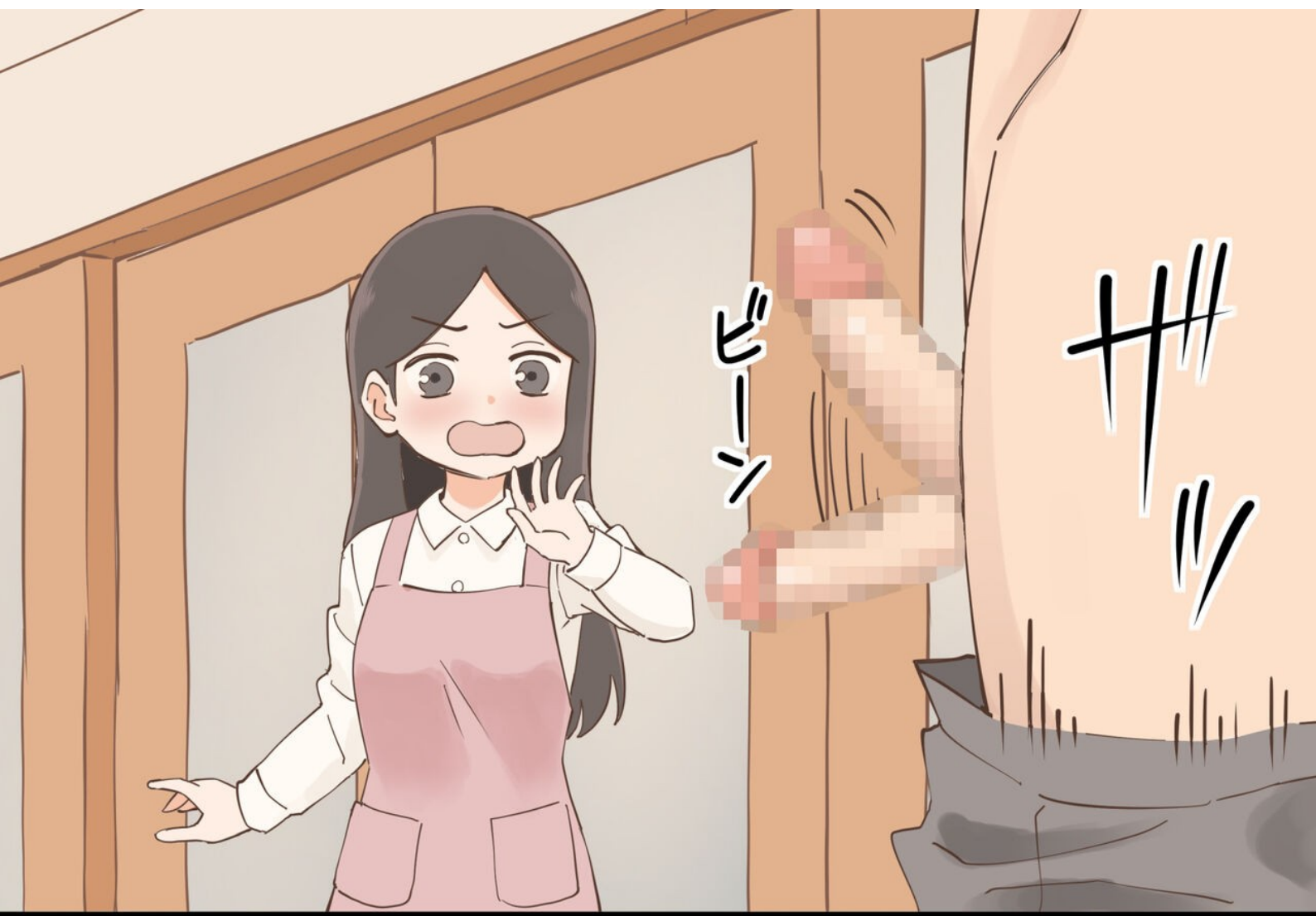
自分以外の男に乱されまくった
妻のすぐそばで
旦那はぐっすり眠り続けていた

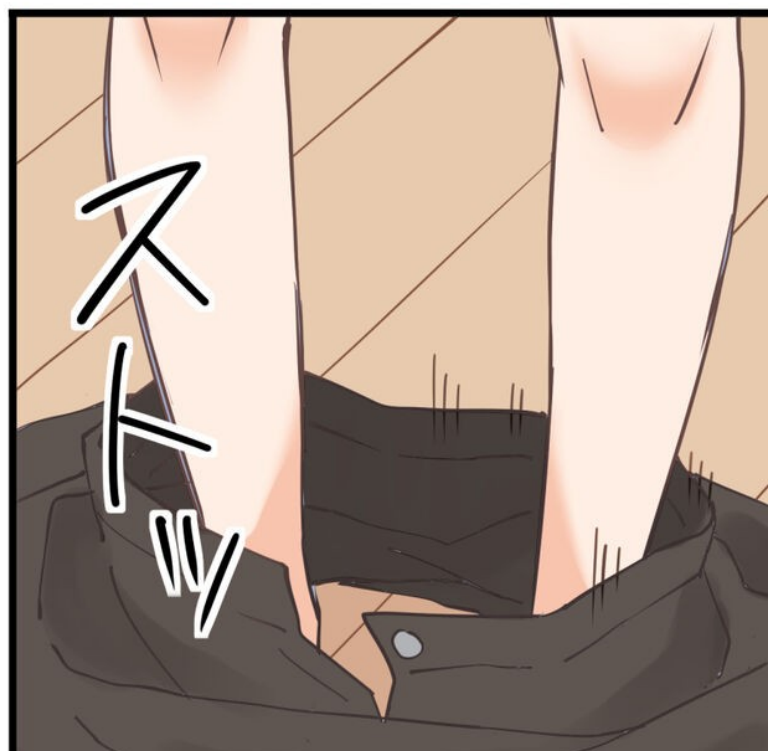
いや、もしかすると起きていて
ボクたちのセックスを
覗いていたのかもしれない…

そう考えたらまた股間が
熱くなった



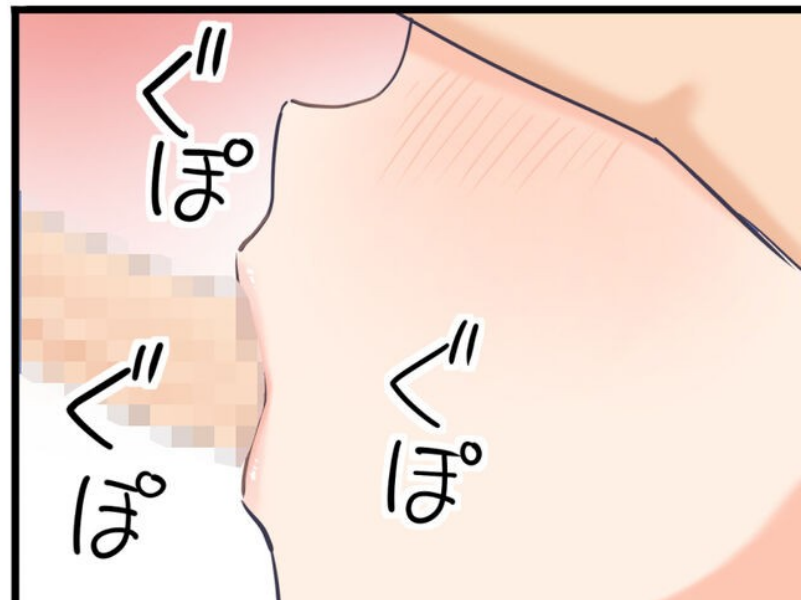
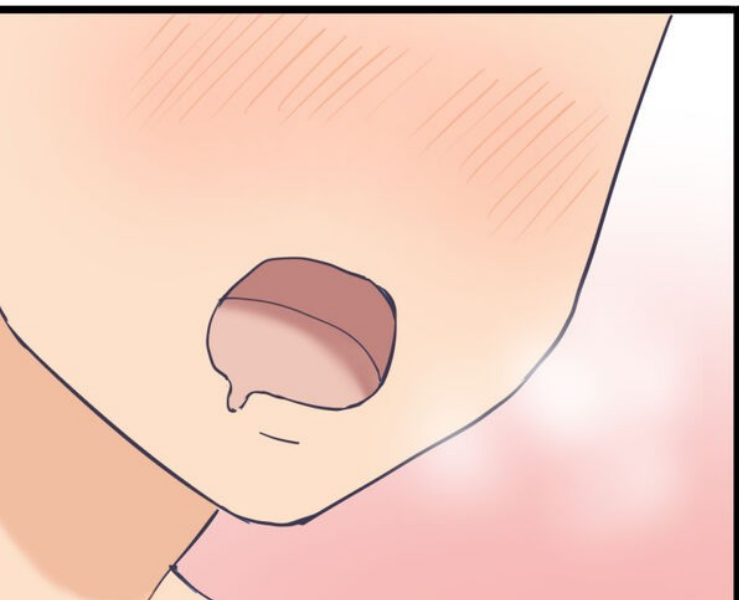


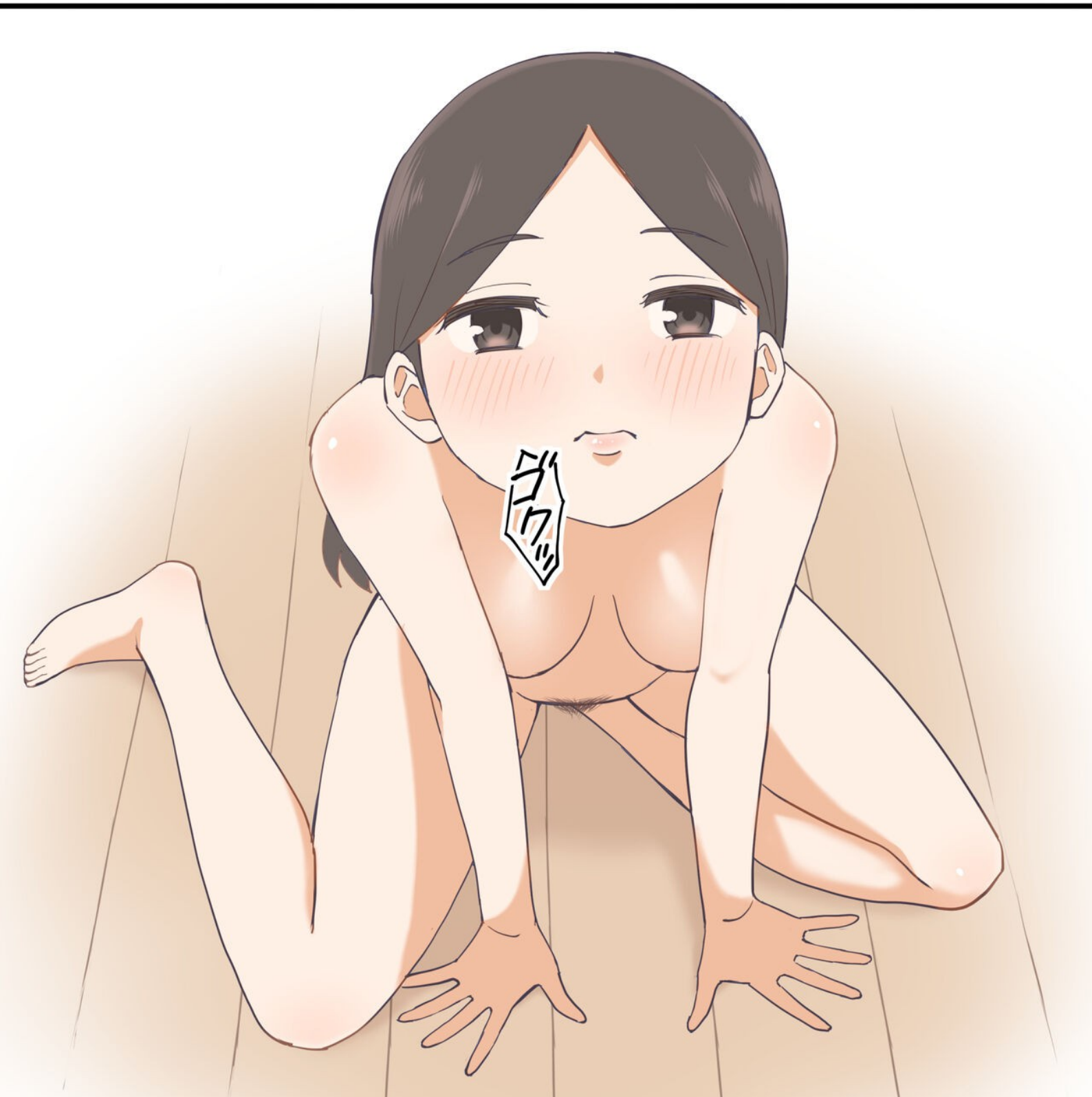


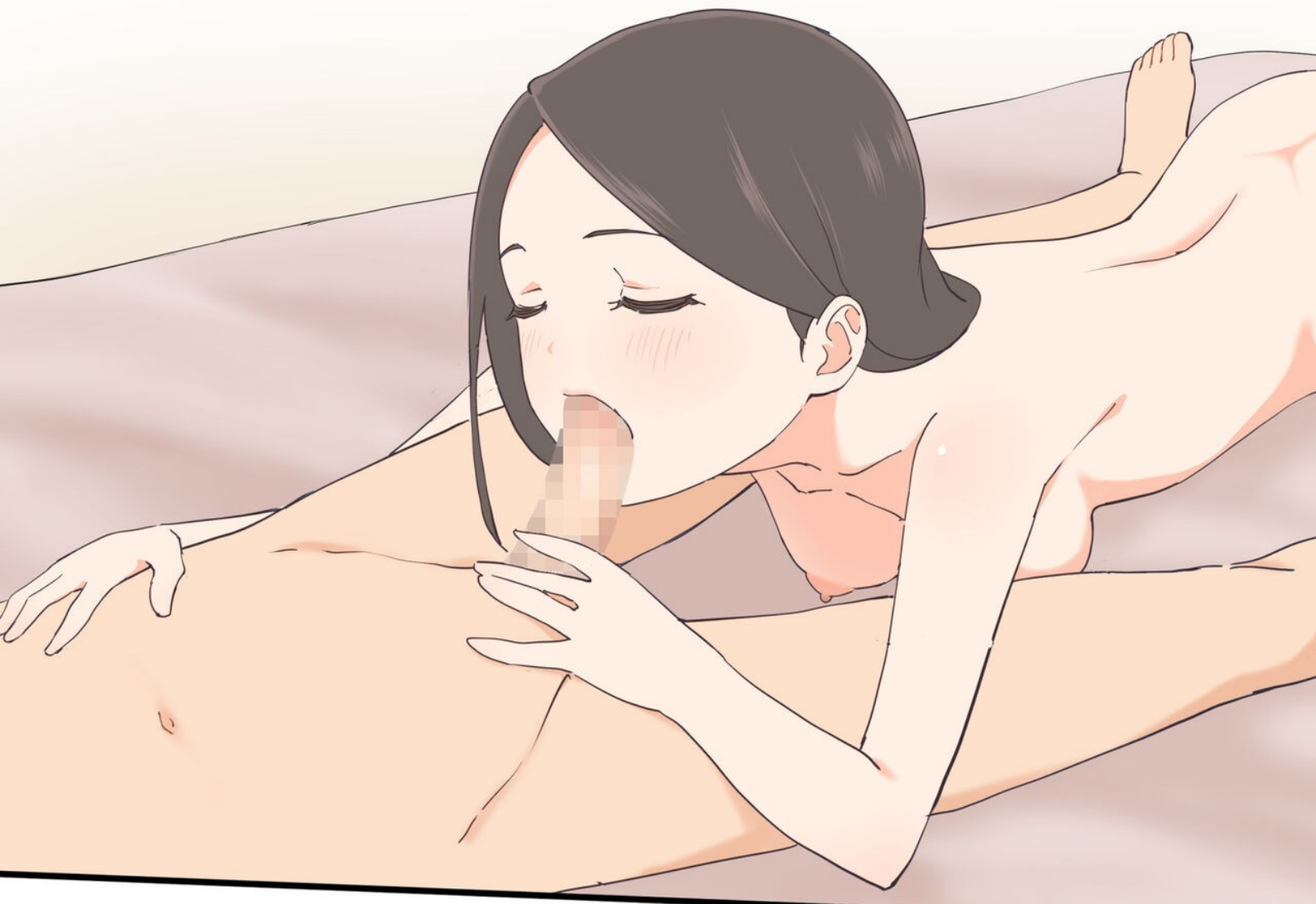




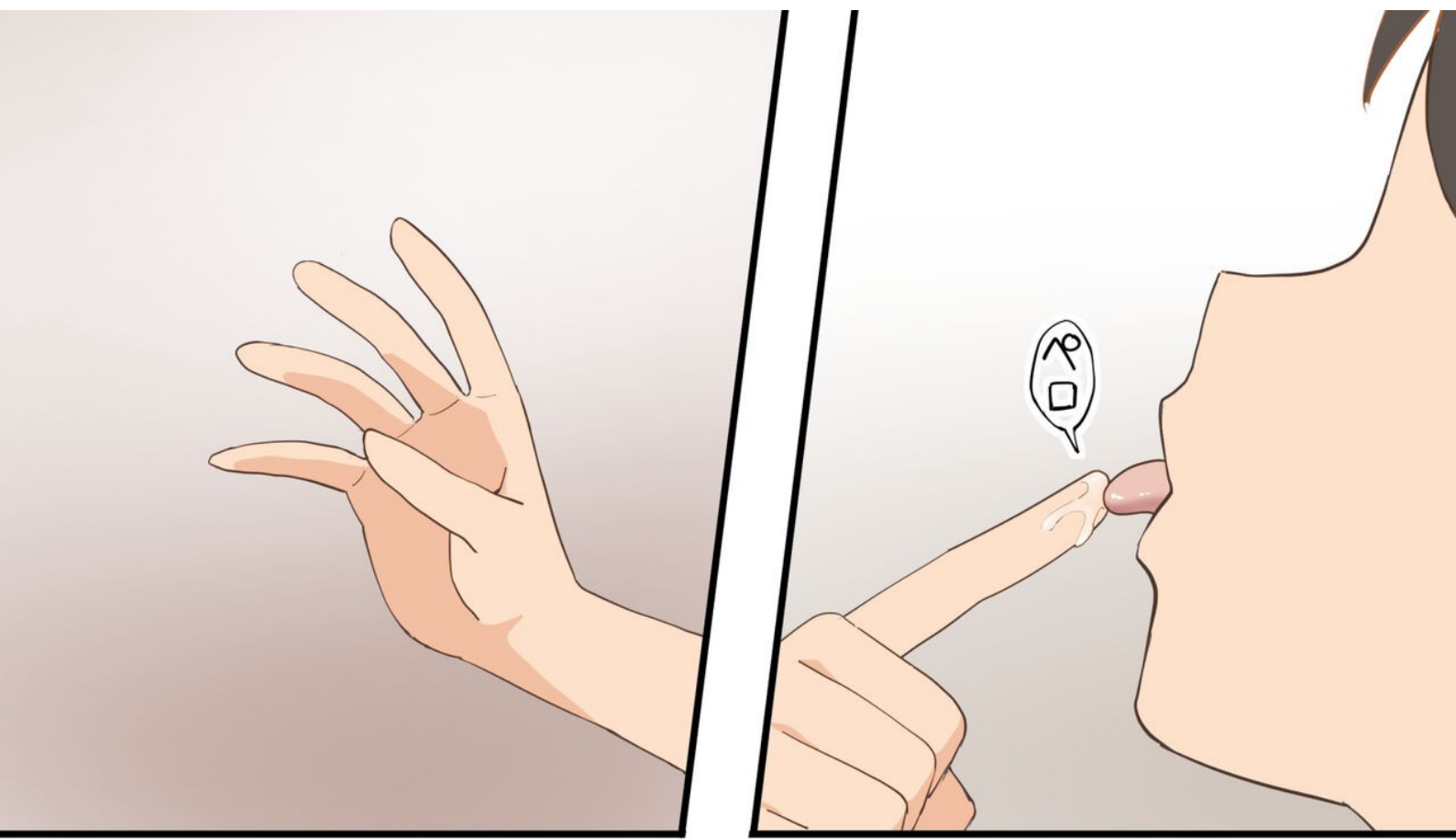


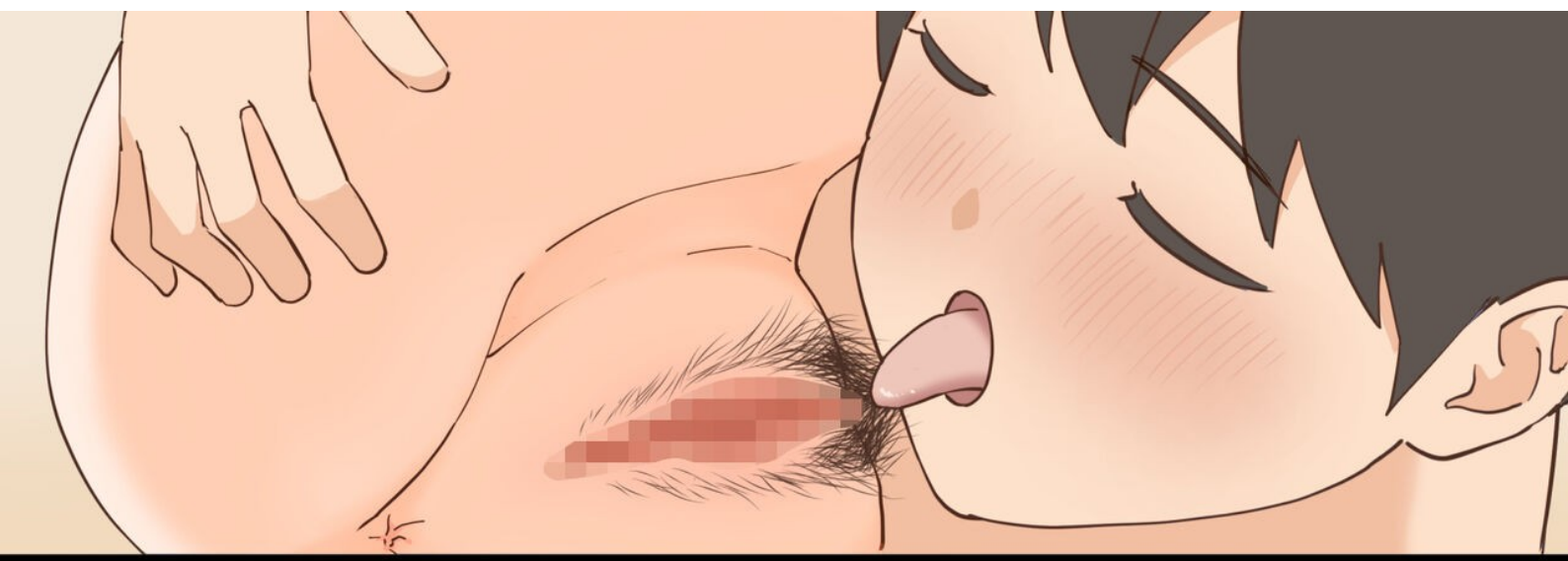


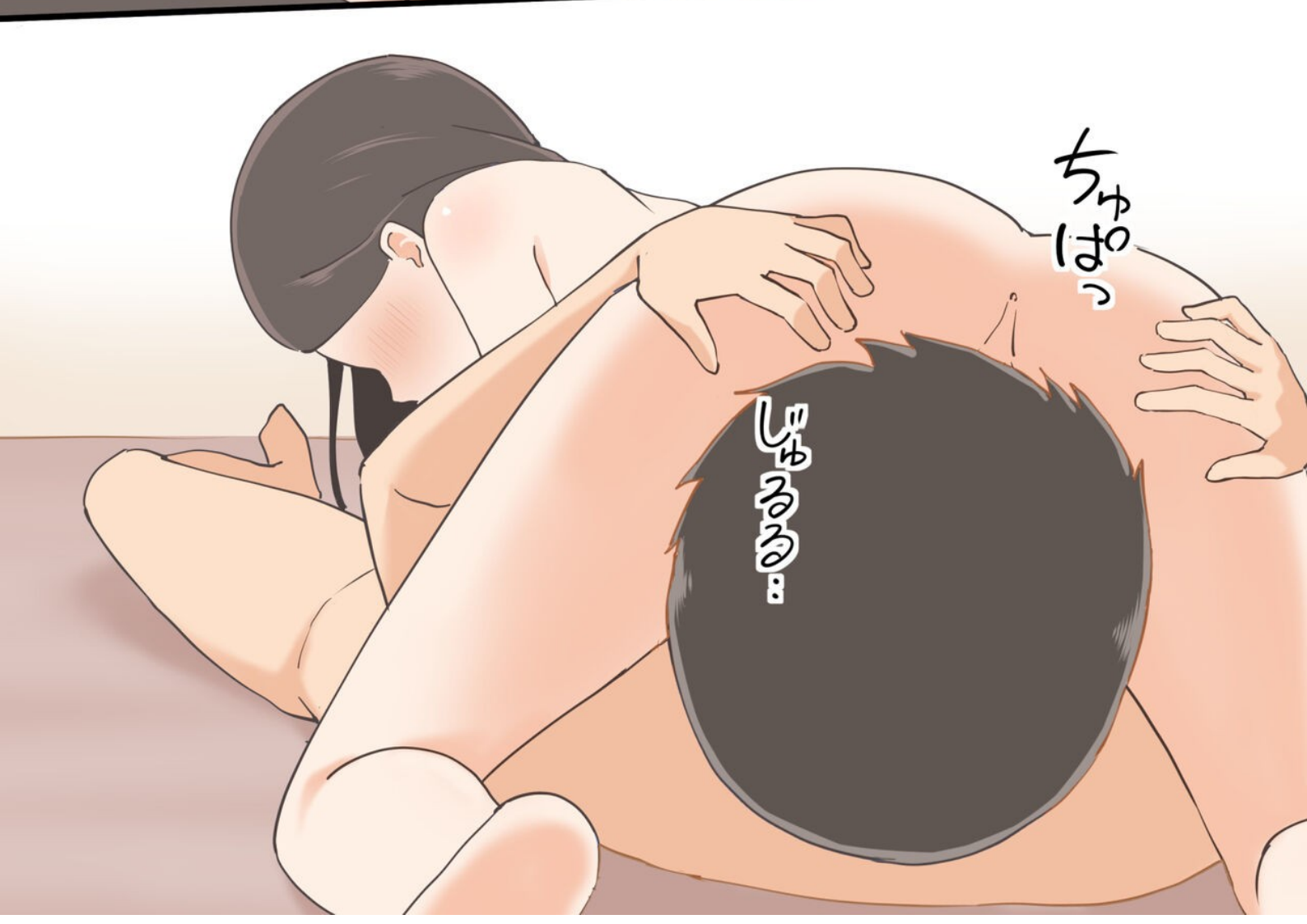
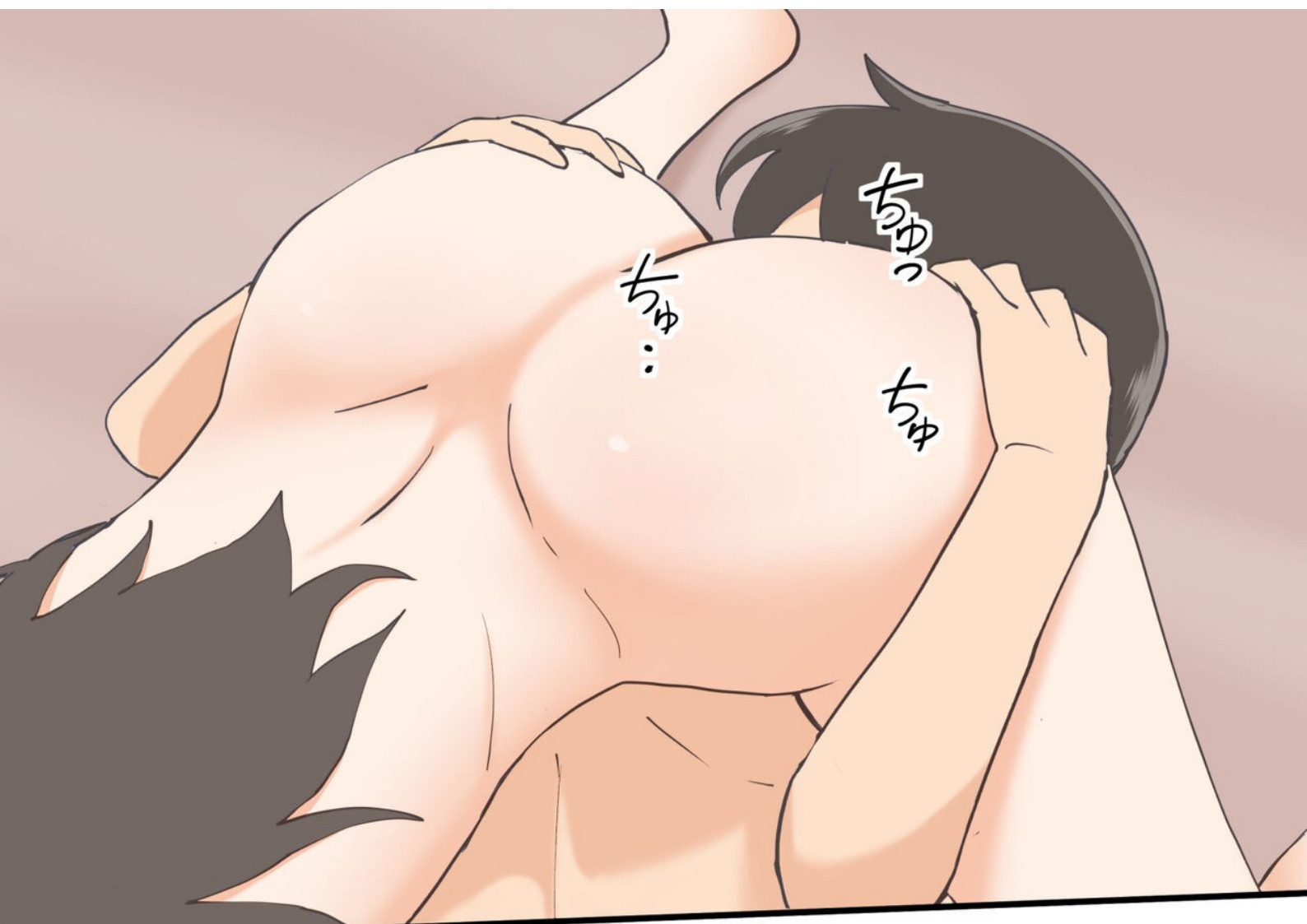


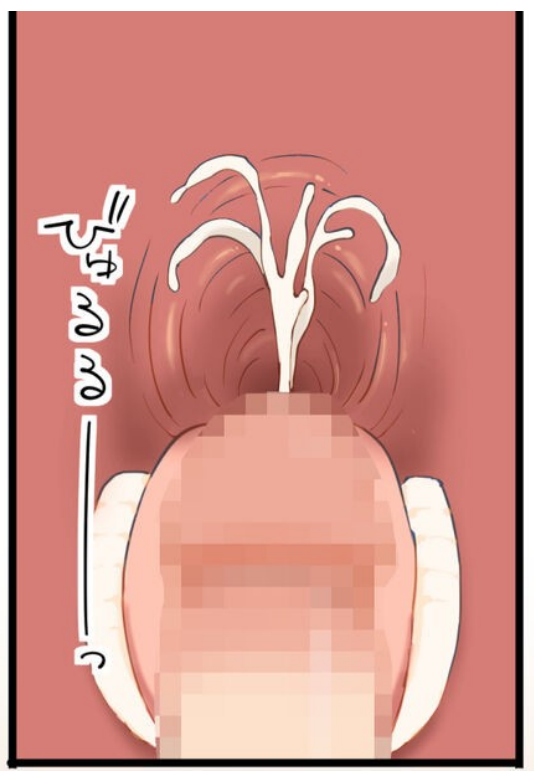


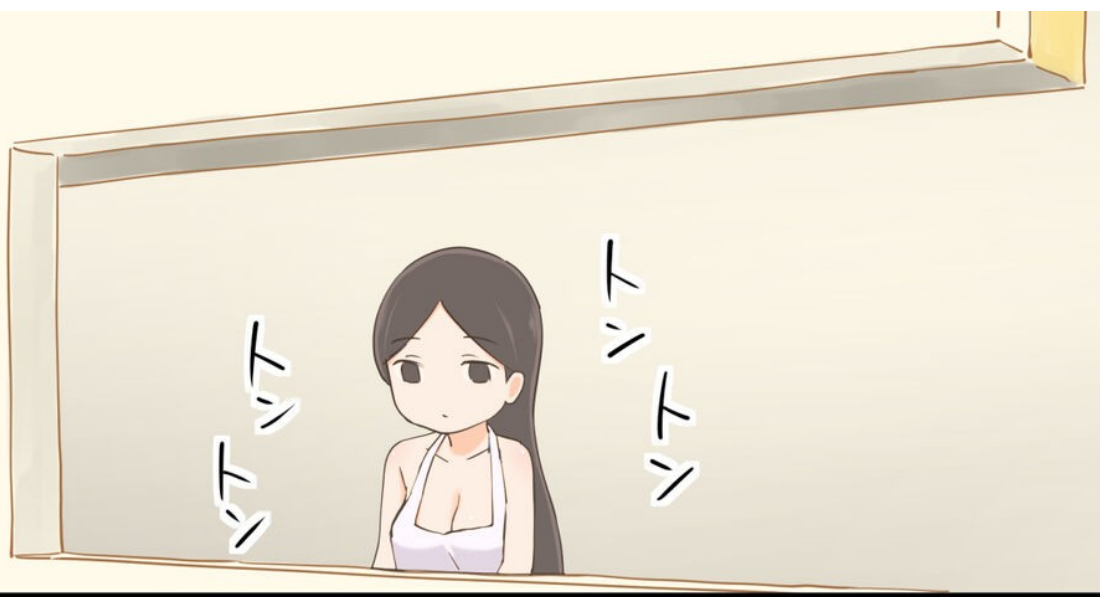




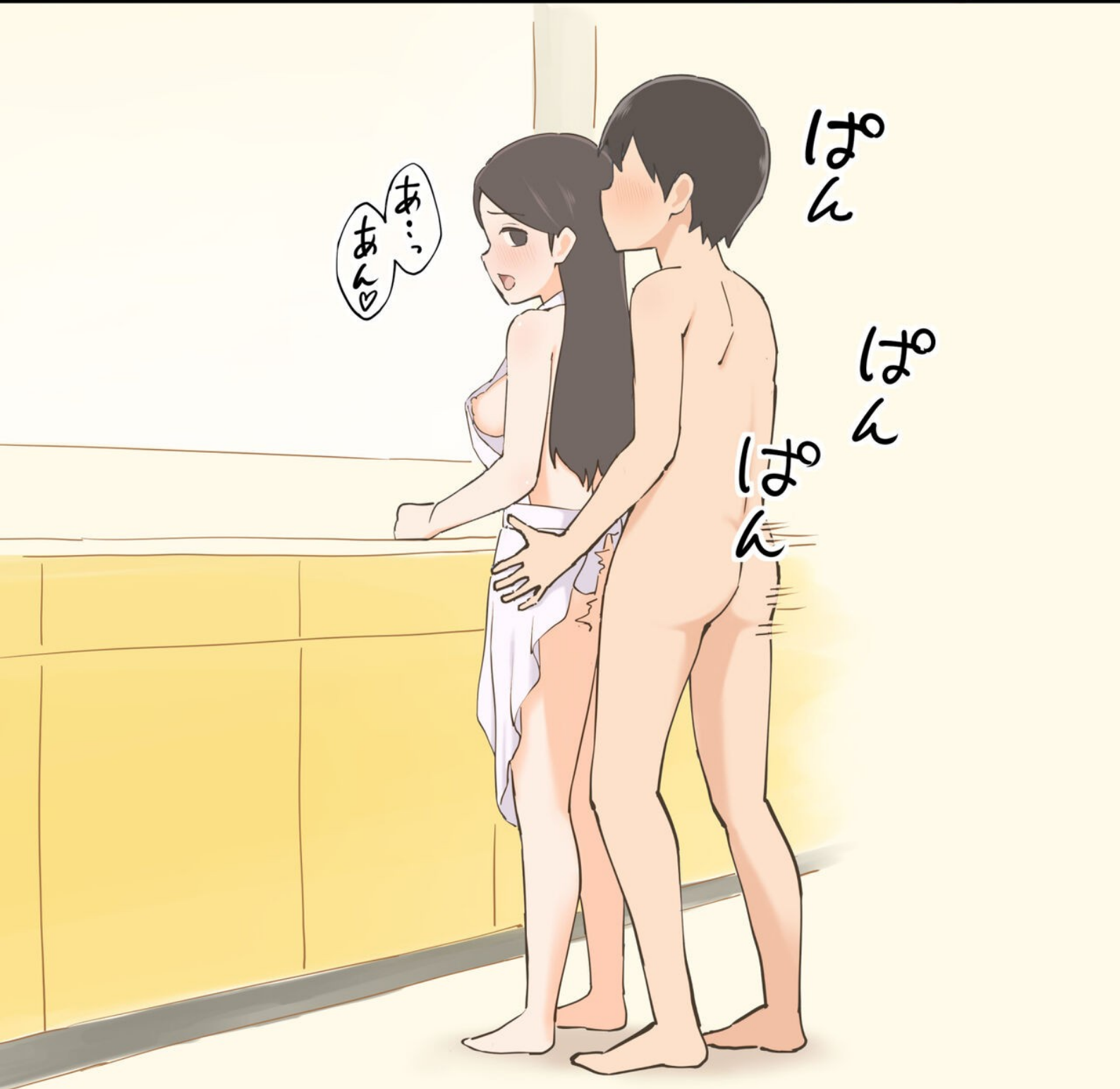








ツツツ
ツツツ



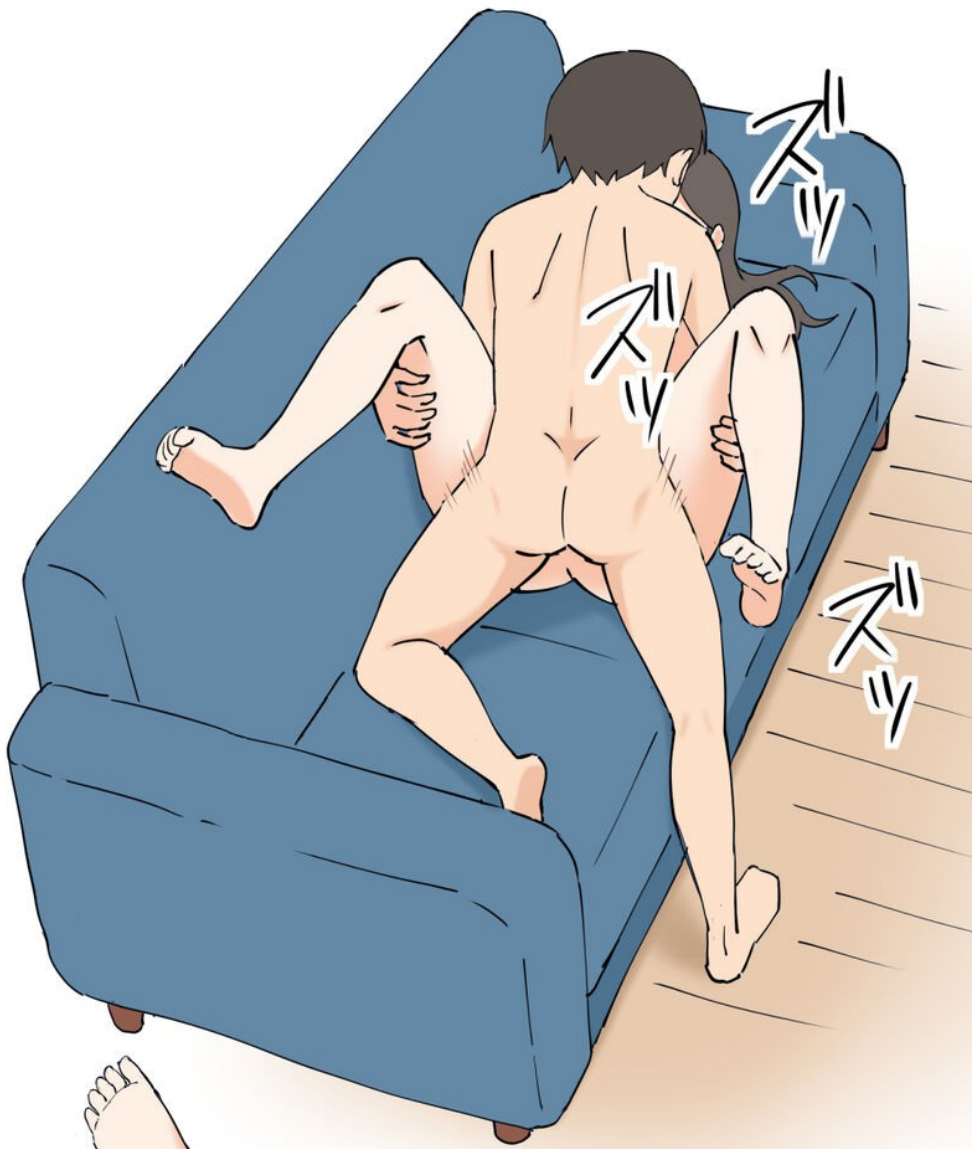
あ...
あ...♡

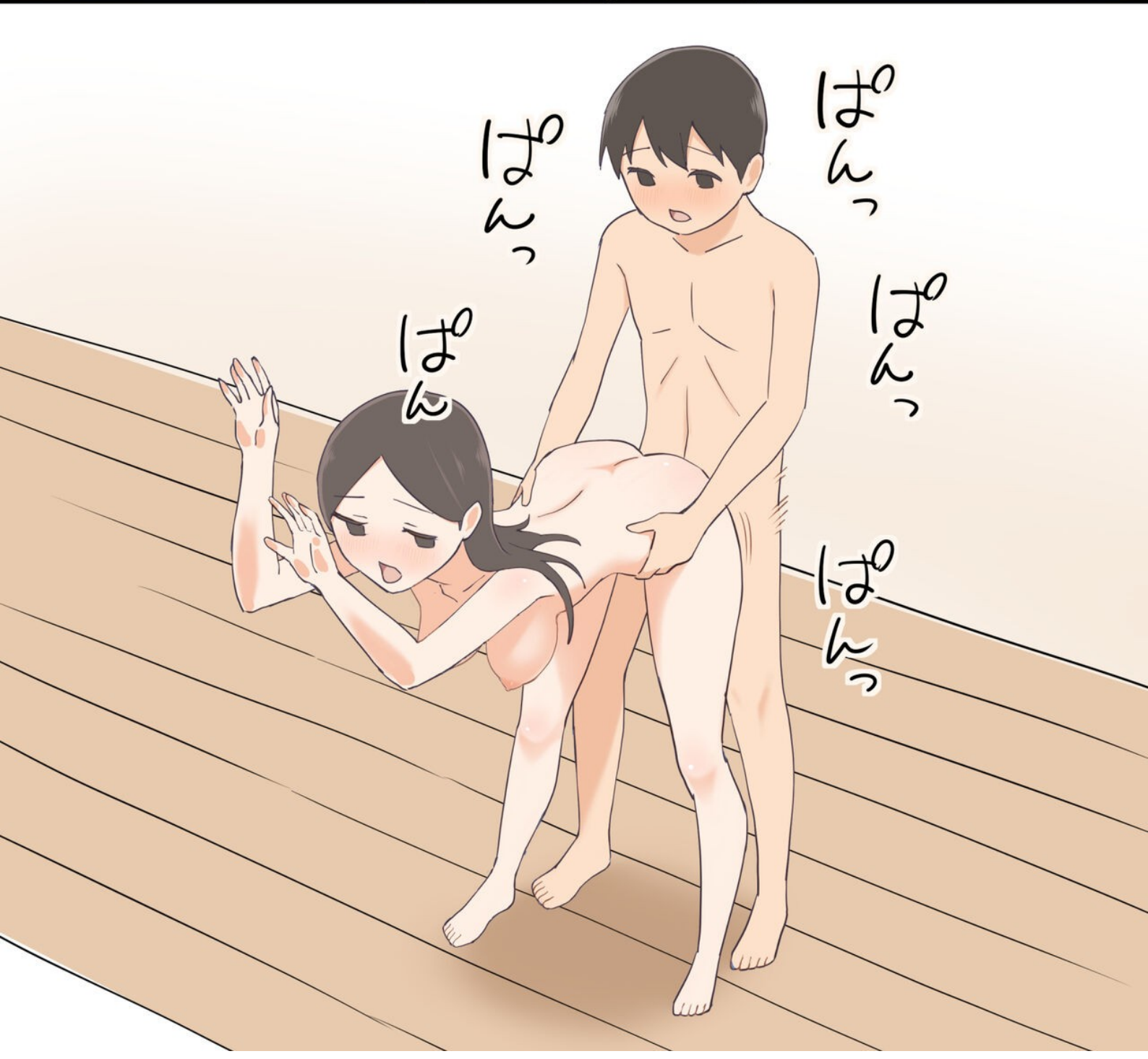
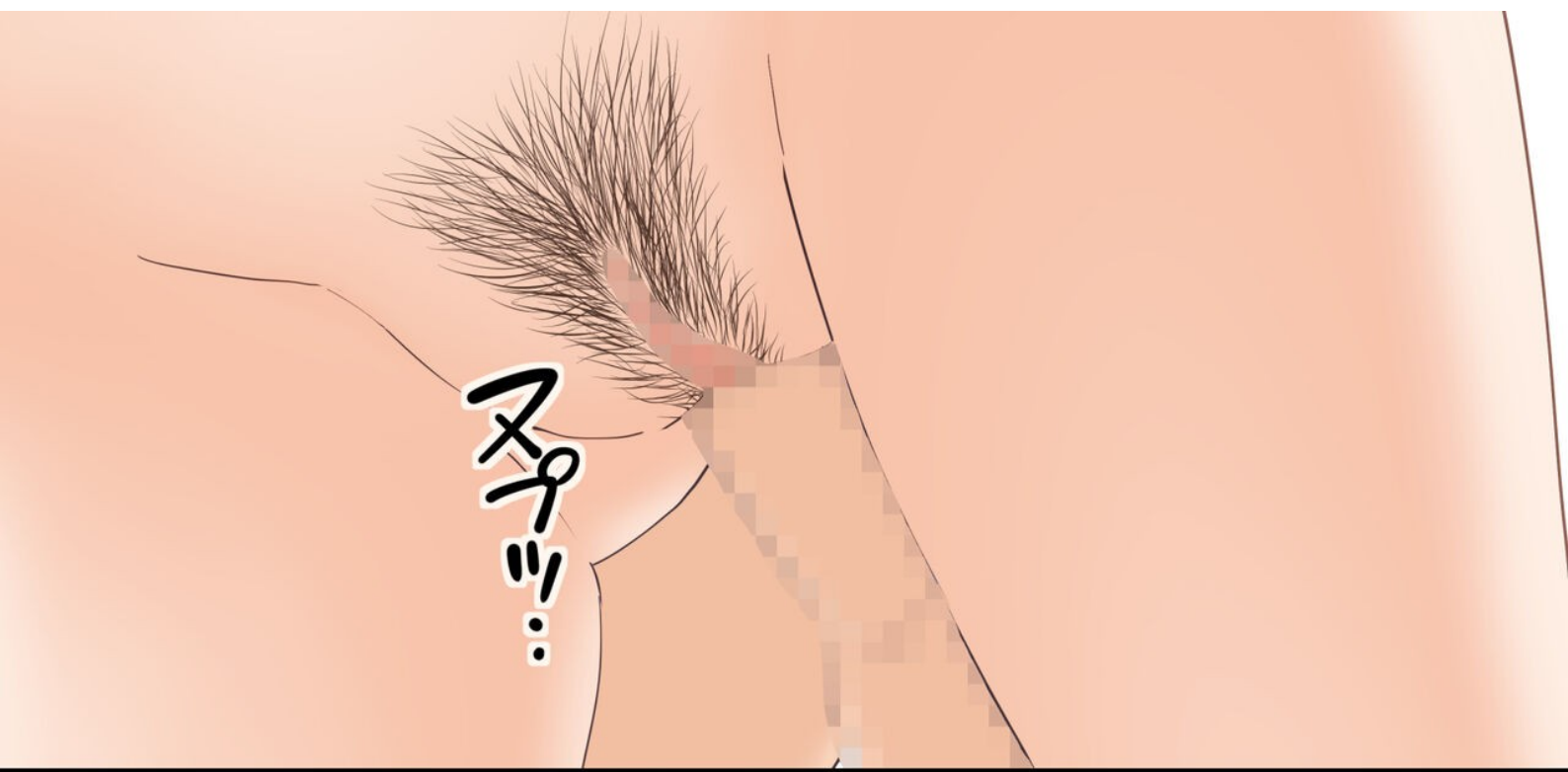
ぽん

ぽん

ぽん











ほんっ

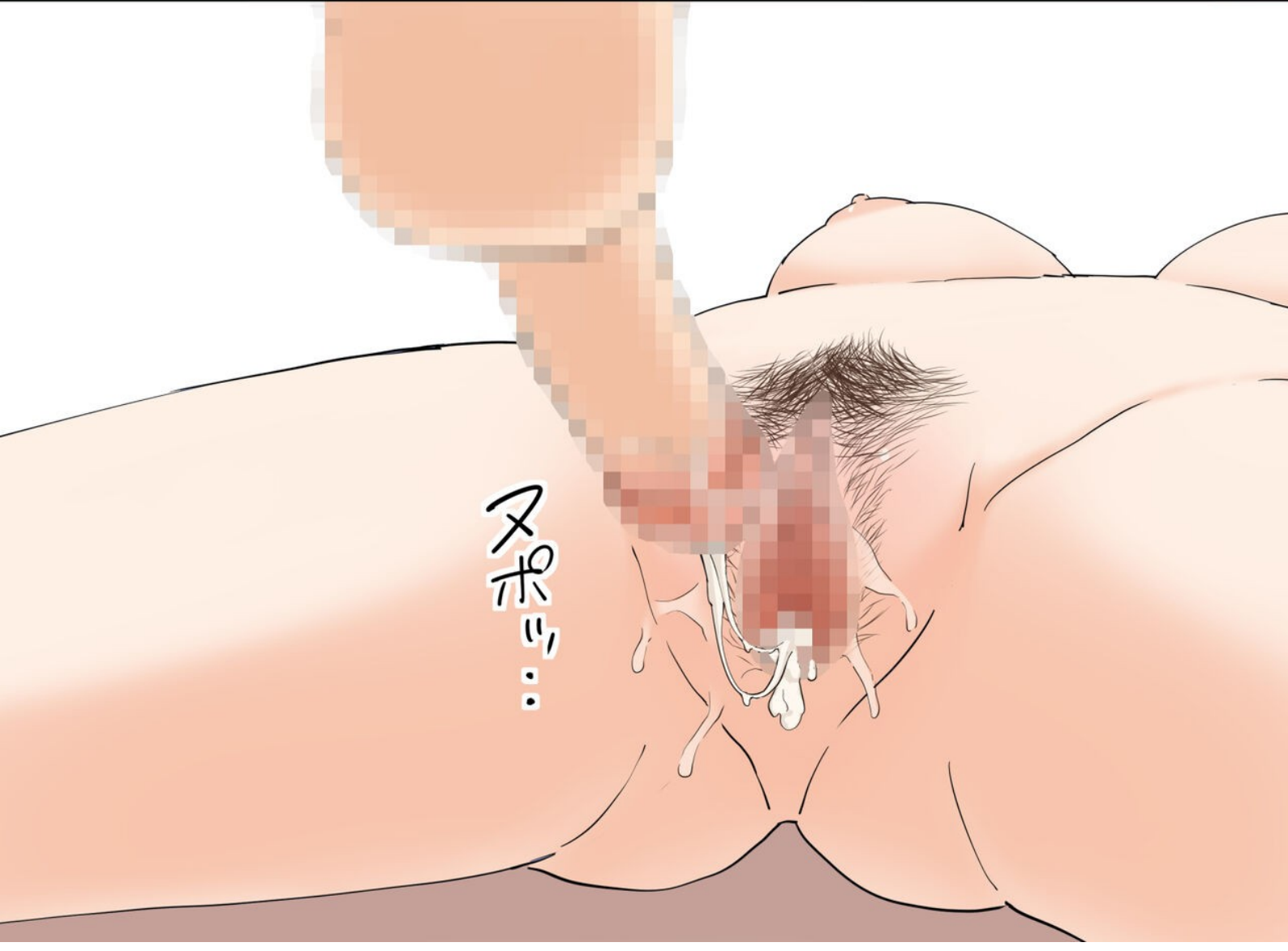
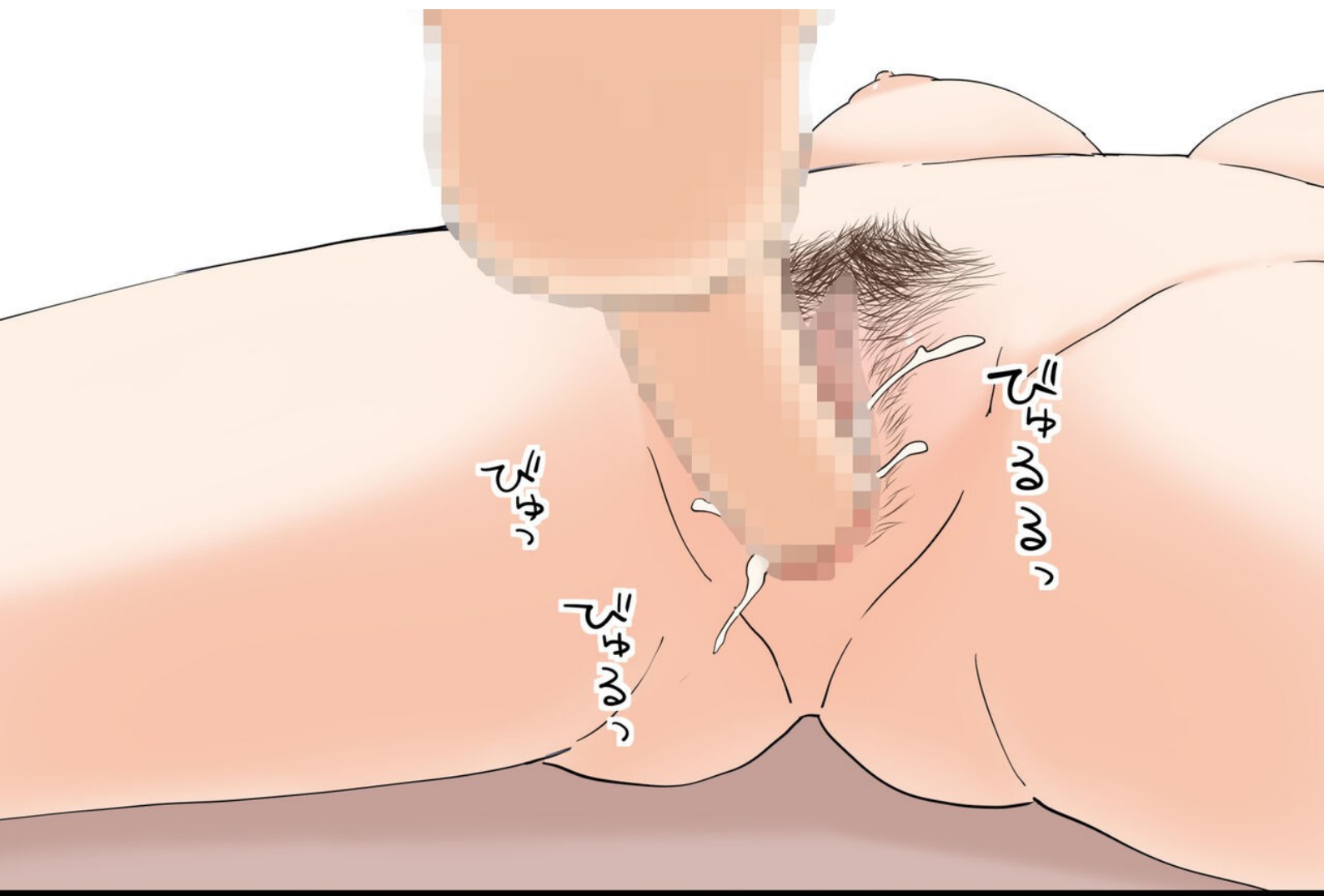
ほん

ほんっ

アッ









ボクの隣に住む夫婦は
毎晩お盛んだった

あんっ…

あっ…
あっ♡

こゝろこゝろ♡

ボクはその声を壁越しに聞きながら
オナニーするのが日課だった

おんこおんこ

ところがここ最近
隣の部屋から喘ぎ声が
聞こえなくなっていた

しん…

どうやらレスみたいなので
ボクは思い切つて声をかけてみた

「え、今からですか!？」

はい

「でも、もうすぐ夫が帰ってくる
時間だし…」

すぐ帰りますから

「で、でも…」

大丈夫、変なことはしませんから

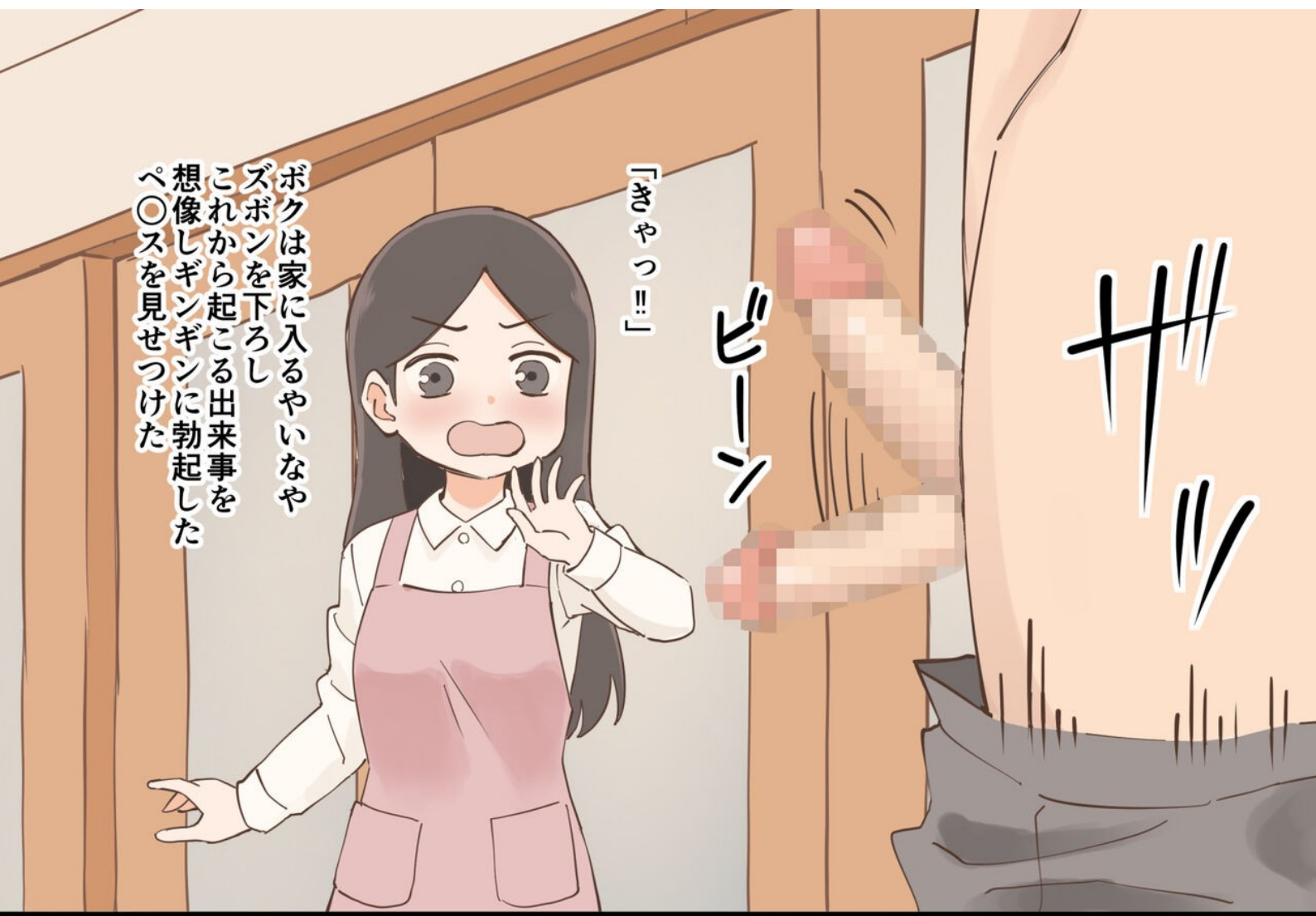
「……
それならいいですよ」

ほんとですか!?
うれしいです

「ちよつとだけですよ」

そう言った彼女の顔は
何かを期待している
ようにも見えた

こうしてボクは
夫不在の人妻の家に
上がりこむことに成功した
もちろん、変なことはしない
というのは嘘だ



「ギョッ!!」

ズン

ザッ!!

ボクは家に入るやいなや
ズボンを下ろし
これから起こる出来事を
想像しギンギンに勃起した
ペ○スを見せつけた



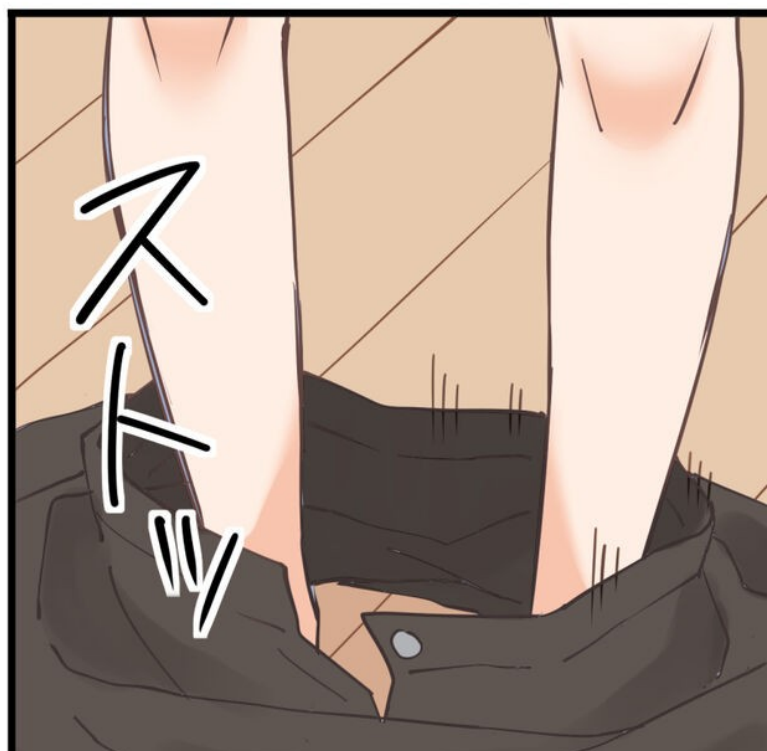
「い、いきなり
何してるんですか!」

いやそんな反応を示したものの
彼女の目はボクのペ○スから
一度も目を離さなかった
そのことをボクは見逃さなかった

「だ、だめです…」

その言葉とは裏腹に
体の方は無抵抗だった

どんどん露わになっていく
彼女の柔肌に今すぐ
しゃぶりつきたい欲求を
抑えるのに必死だった





そこには生まれたままの姿で
恥ずかしそうにこちらを見ている
人妻の姿があった



本当は一生見ることはない、
見てはいけないはずの
人妻の裸…

ボクは背徳感でさらに興奮した

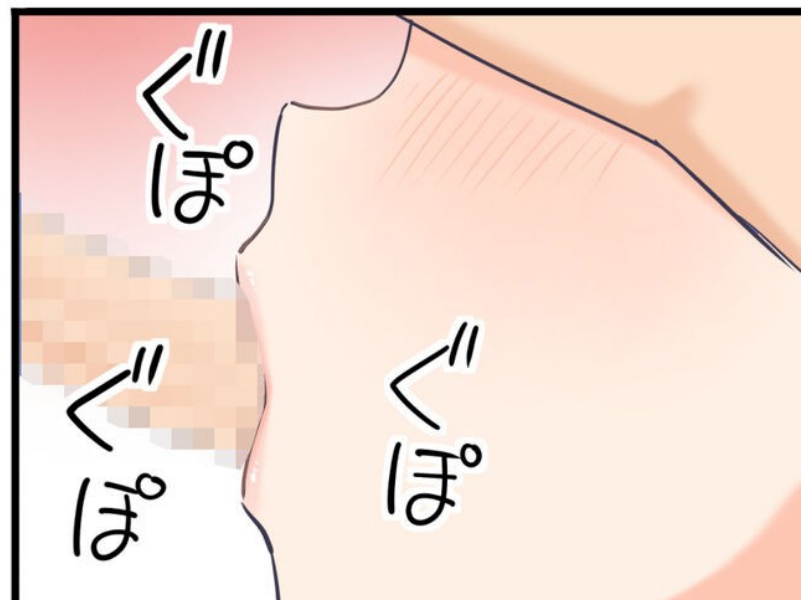
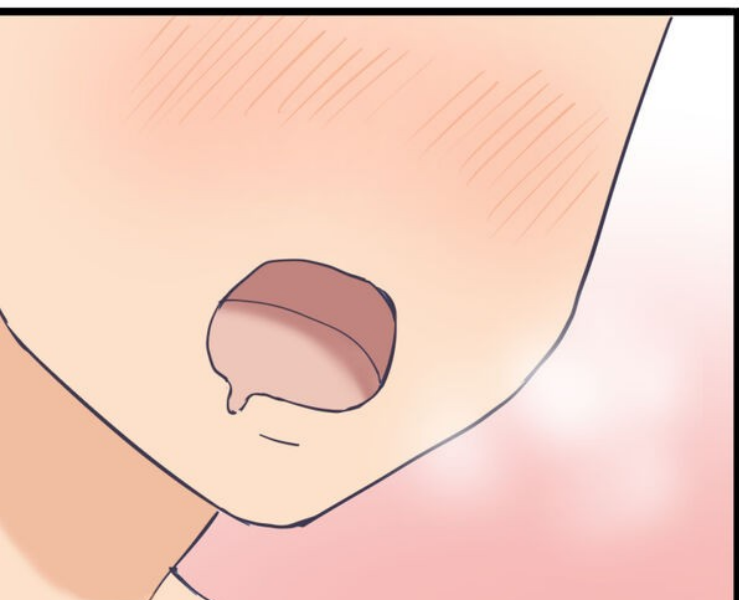
「好きにしていますよ」

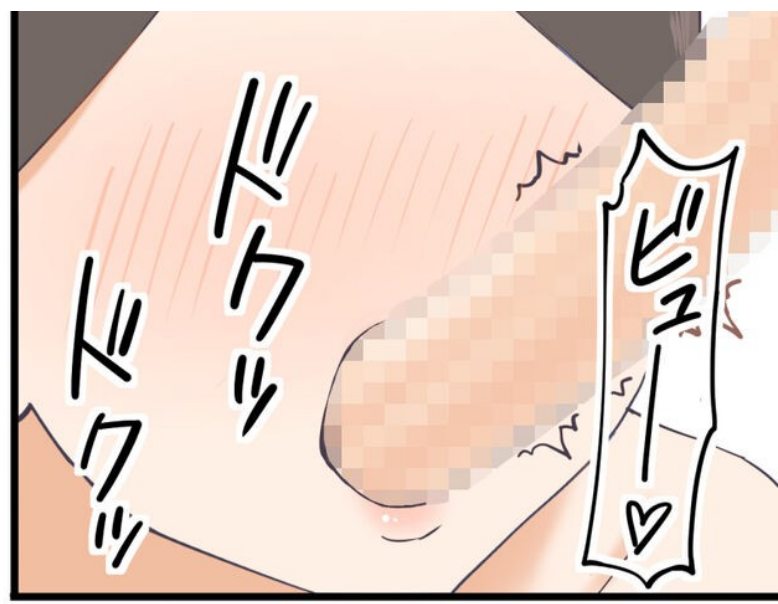
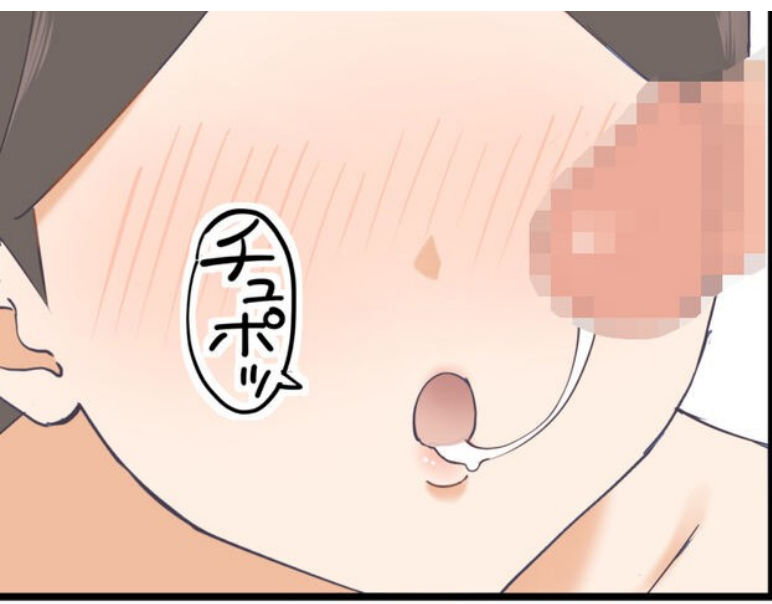
ボクがそう言うと
彼女は恥じらいながらも
嬉しそうにボクのペ○スを
舐め始めた



ボクは無我夢中で
腰を振った

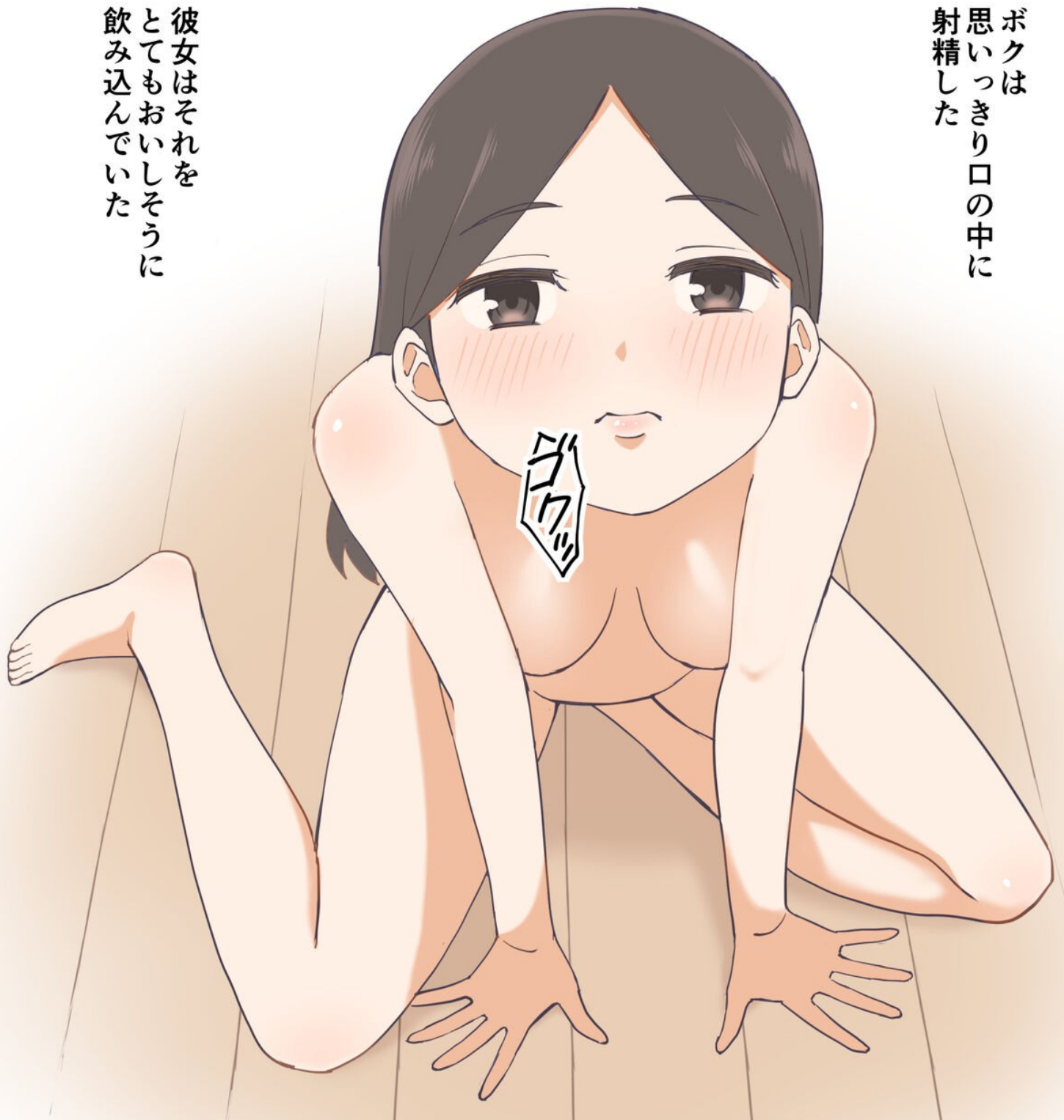
ねっとり温かい口内で
舌がいやらしく絡みつくとたび
イキそうになった





彼女はそれを
とてもおいしそうに
飲み込んでいた

ボクは
思いつきり口の中に
射精した





いけないことをしている…
だけでも抑えることはできない

ボクは彼女の体を
もっと味わいたいと
思った



「え…ま〇こが見たい…?」

れろ♡

れろ♡

彼女はボクのペ〇スを
くわえたまま
旦那に何十回、
何百回と犯された
使い込まれたま〇こを
見せてくれた



頭の中がま○こでいっぱいになった

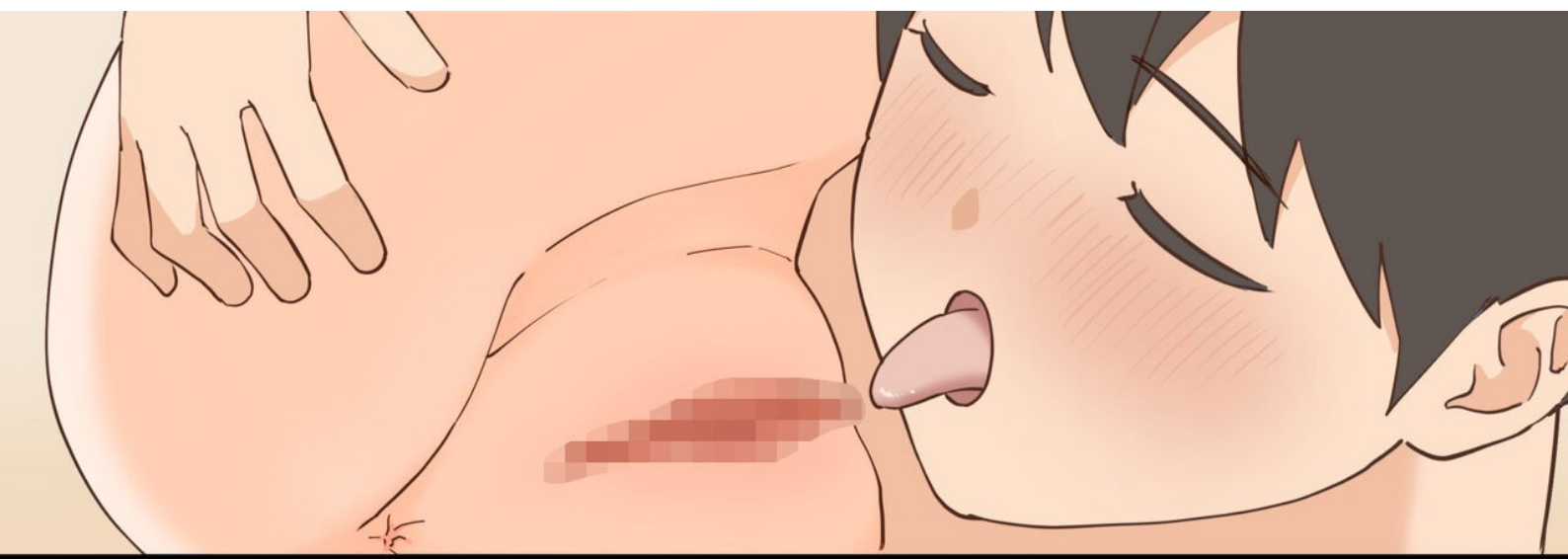


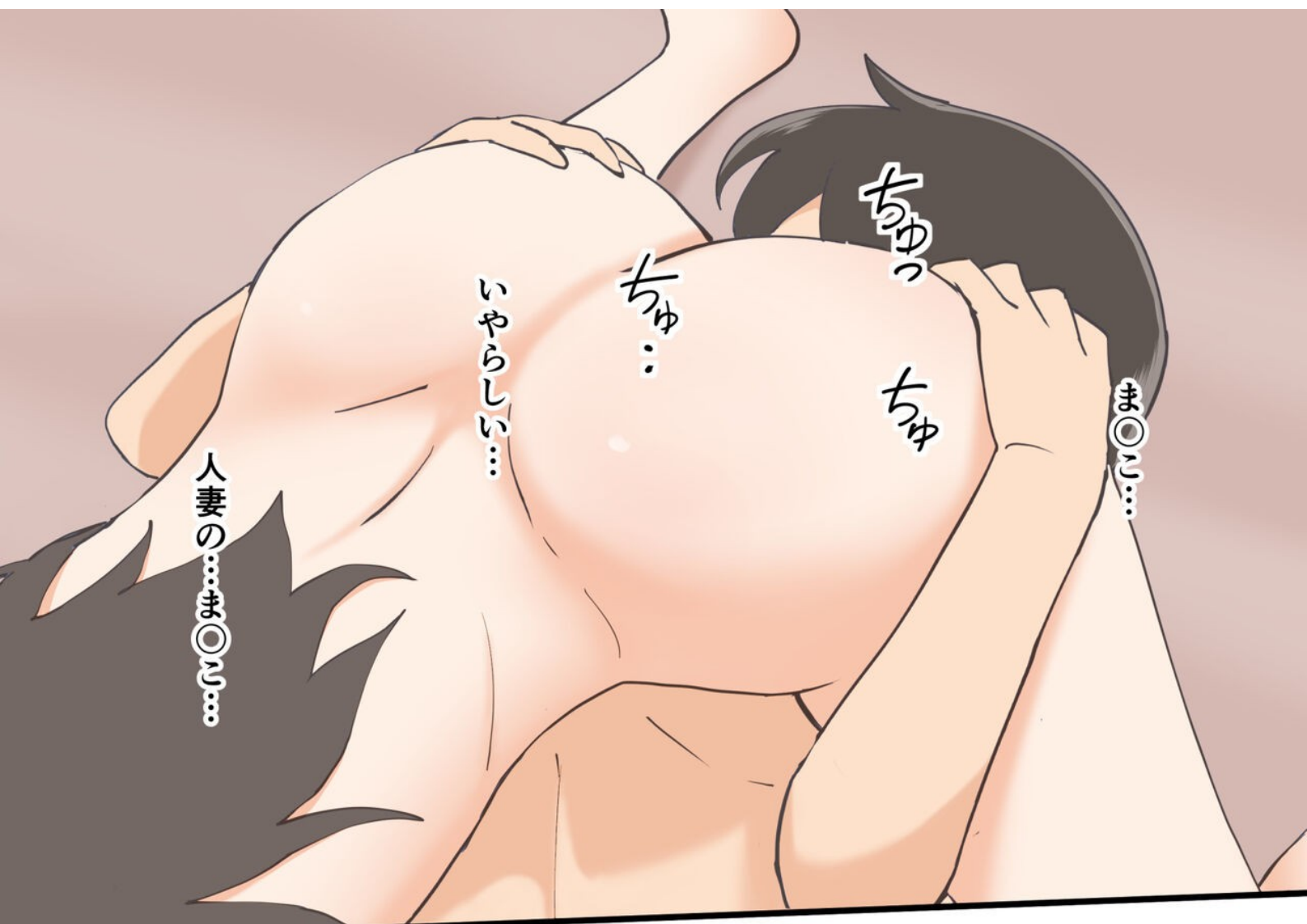
もっと味わいたい

これが人妻の味…

ものすごくいやらしい味がした







人妻の...ま〇ん...

いやらしい...

ちゅ...

ちゅっ

ちゅ

ま〇ん...



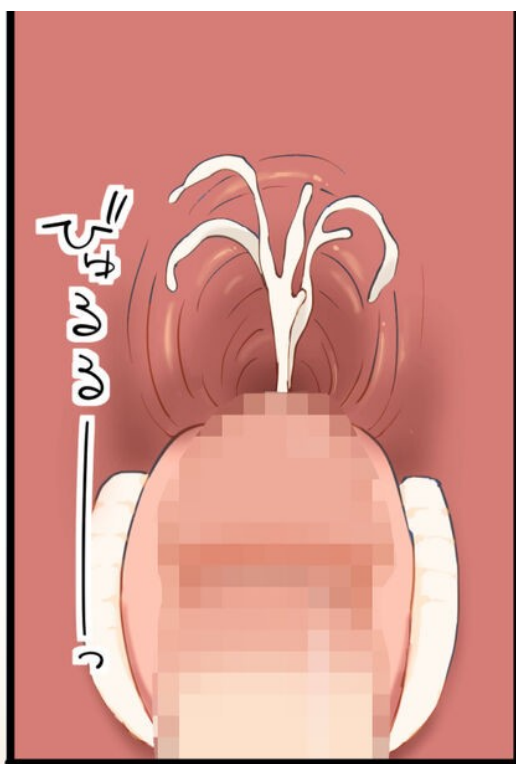
ボクはひたすら目の前に広がる
卑猥な穴を貪り続けた

ちゅっ

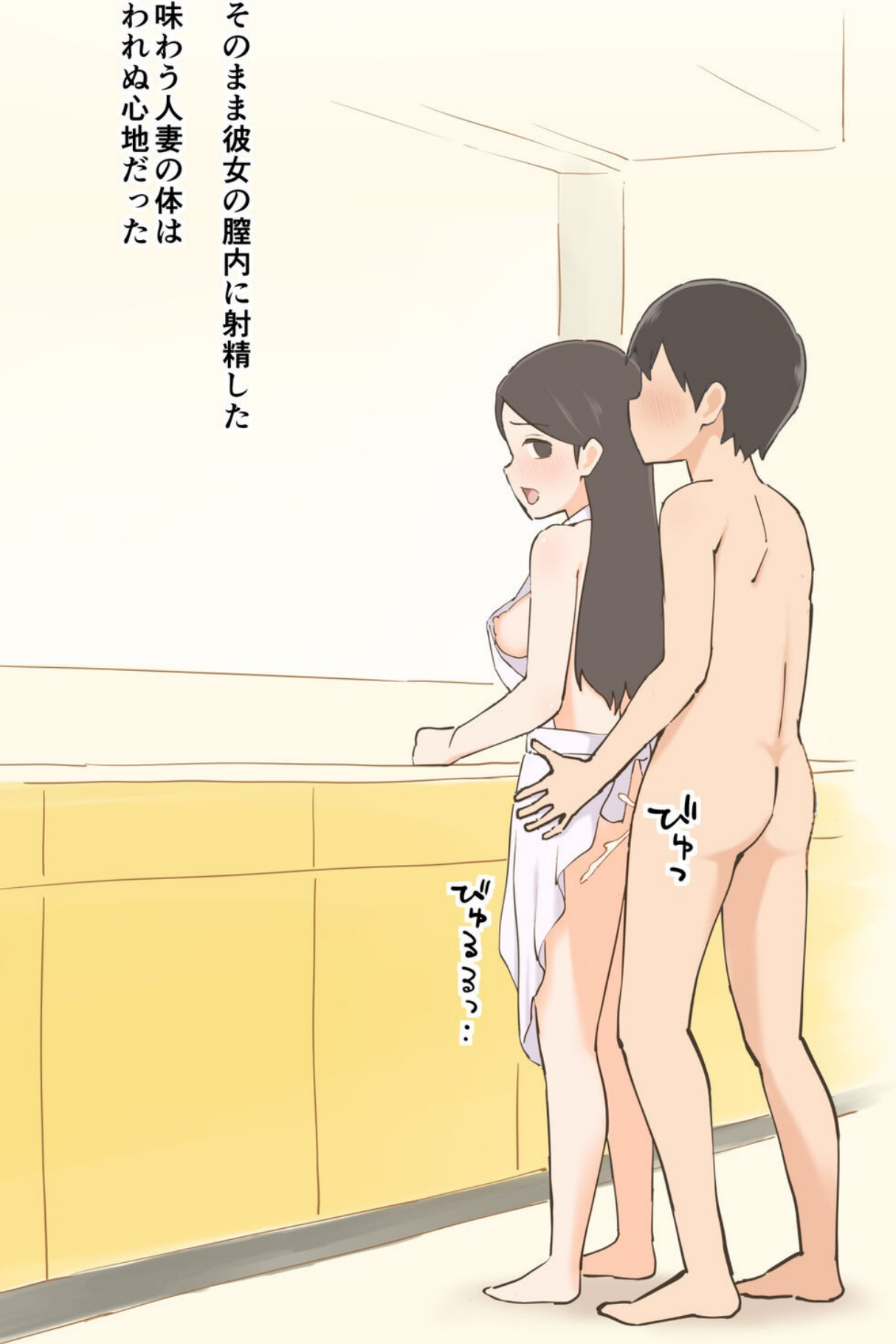
じゅるる...

旦那以外の男の精液を
彼女は一滴漏らさず飲み込んだ

欲望のままに射精すると
いつも旦那と寝ている
ベッドの上で



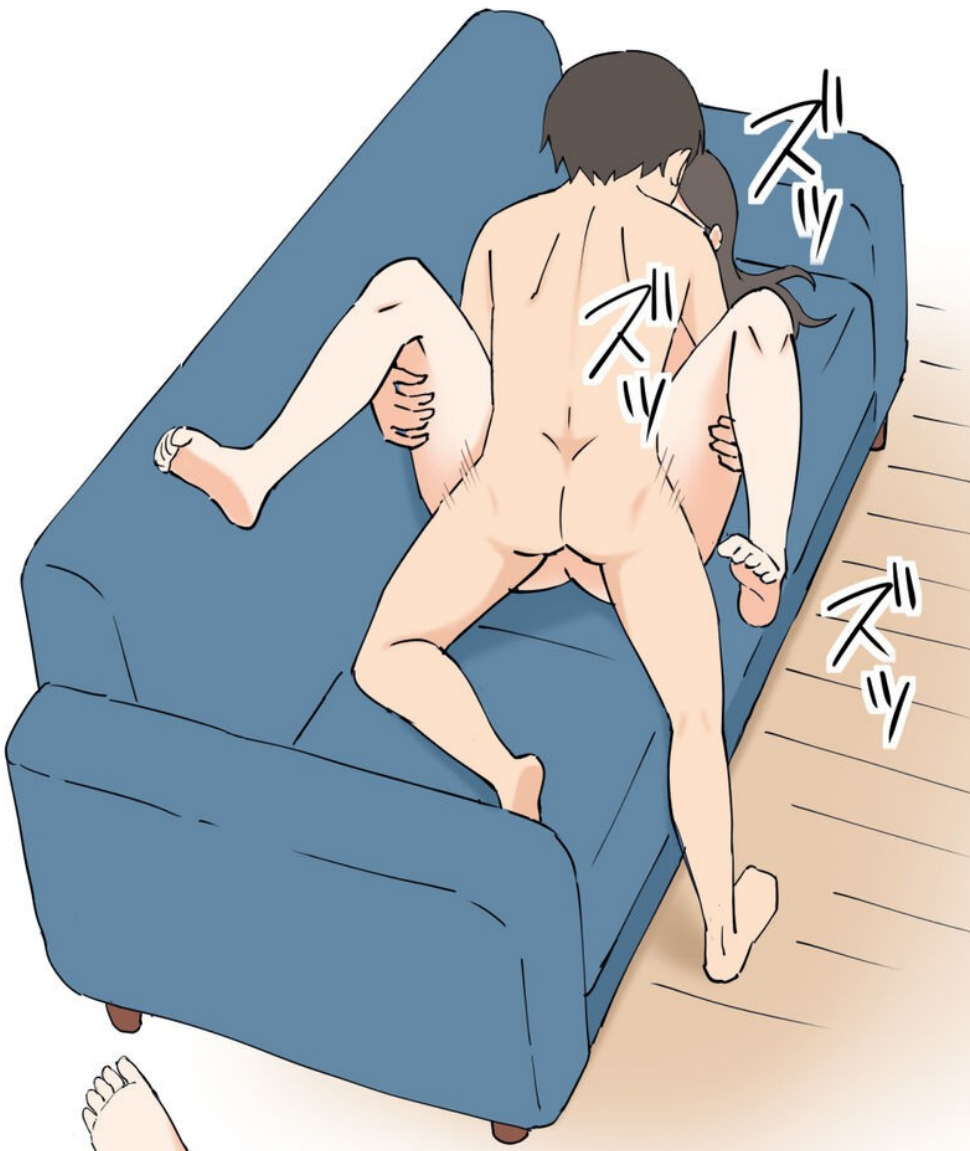
今日は旦那が寝室で寝ている
そう考えると背徳感で
より一層興奮した

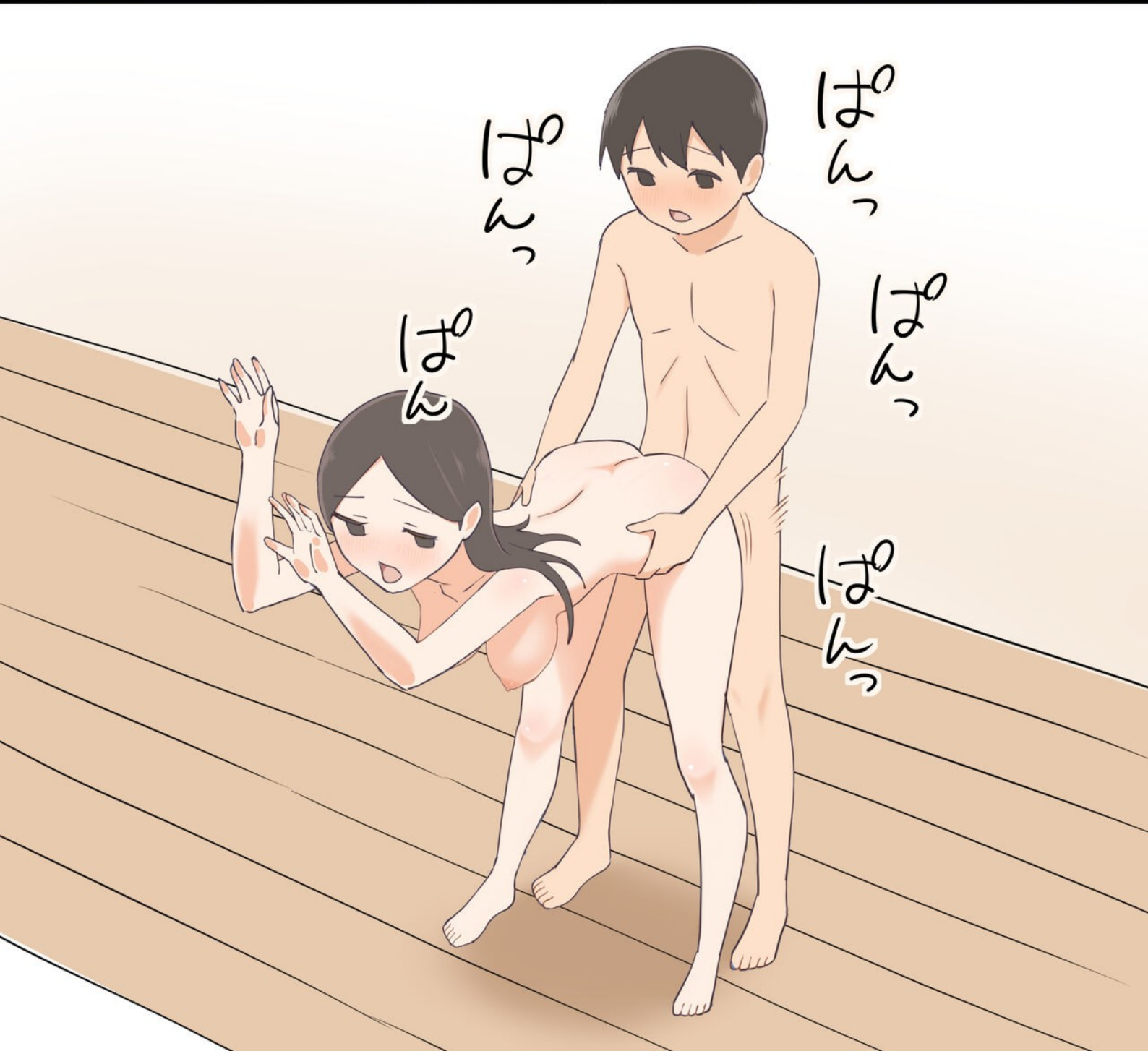
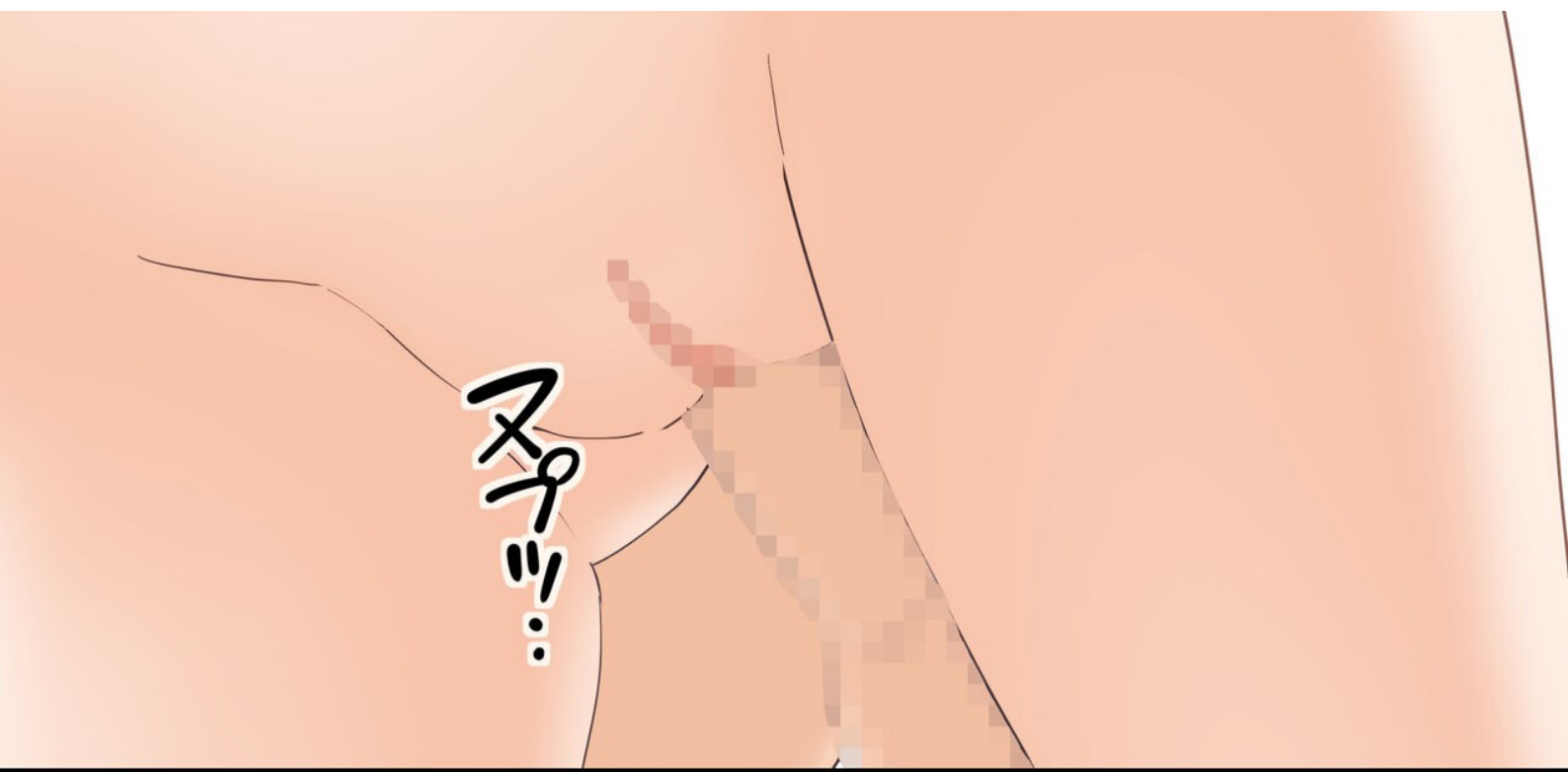


ボクはそのまま彼女の膣内に射精した

初めて味わう人妻の体は
得も言われぬ心地だった

それからボクは欲望のまま
彼女とセックスした
彼女もまた、欲望のままに
ボクを受け入れた





キッチンで、ソファの上で
寝室前の廊下で...

ボクたちは所かまわず
セックスした



寝室へとやってきたボクらは
まるで見せつけるかのように
激しくいやらしい音を立てながら
寝ている旦那の目の前で
彼女のま○こを犯した

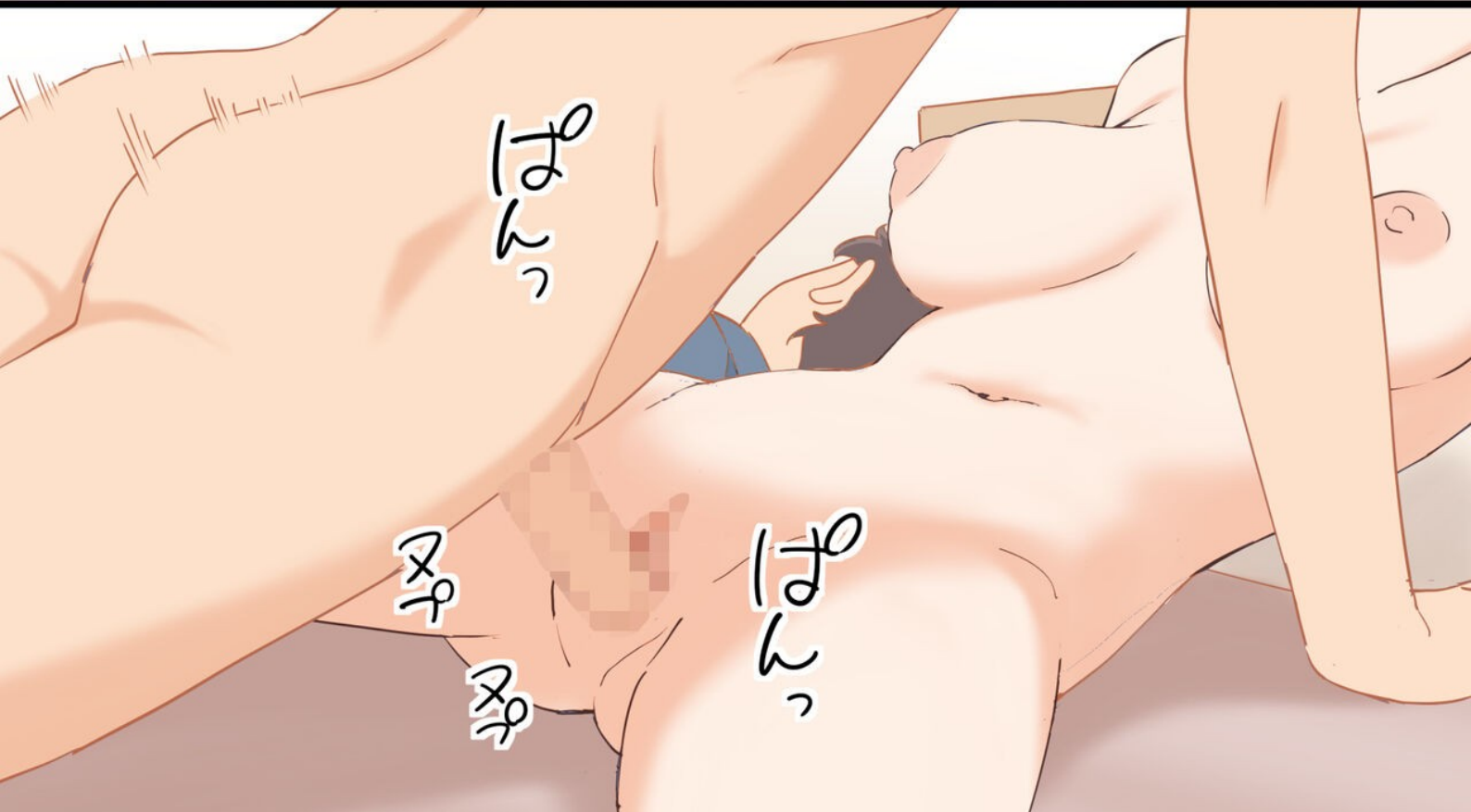


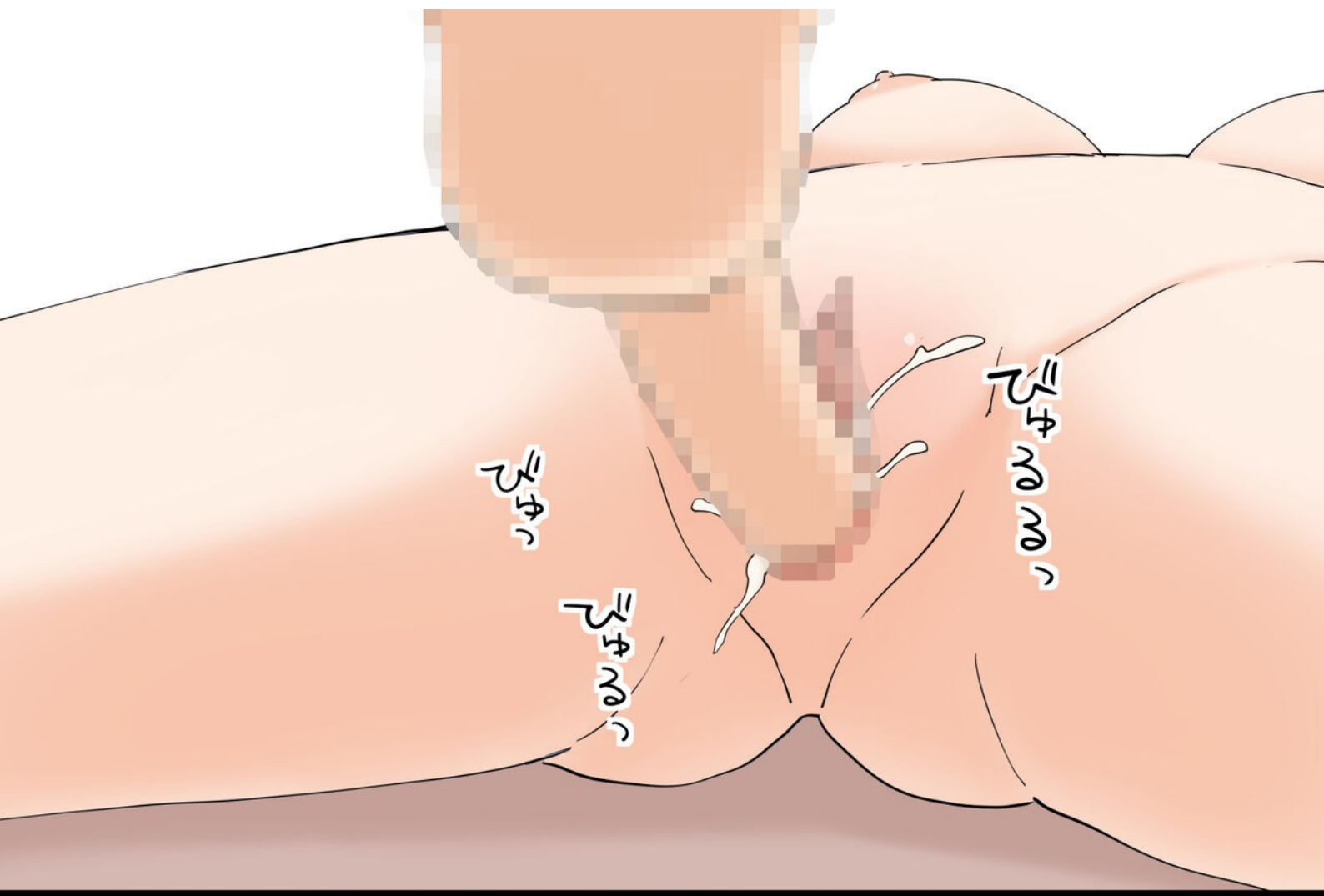


何度も何度も…

ズッ
ズッ

旦那が寝ているすぐ横で
彼女の体はボクのものだと
言わんばかりに
夢中でセックスした





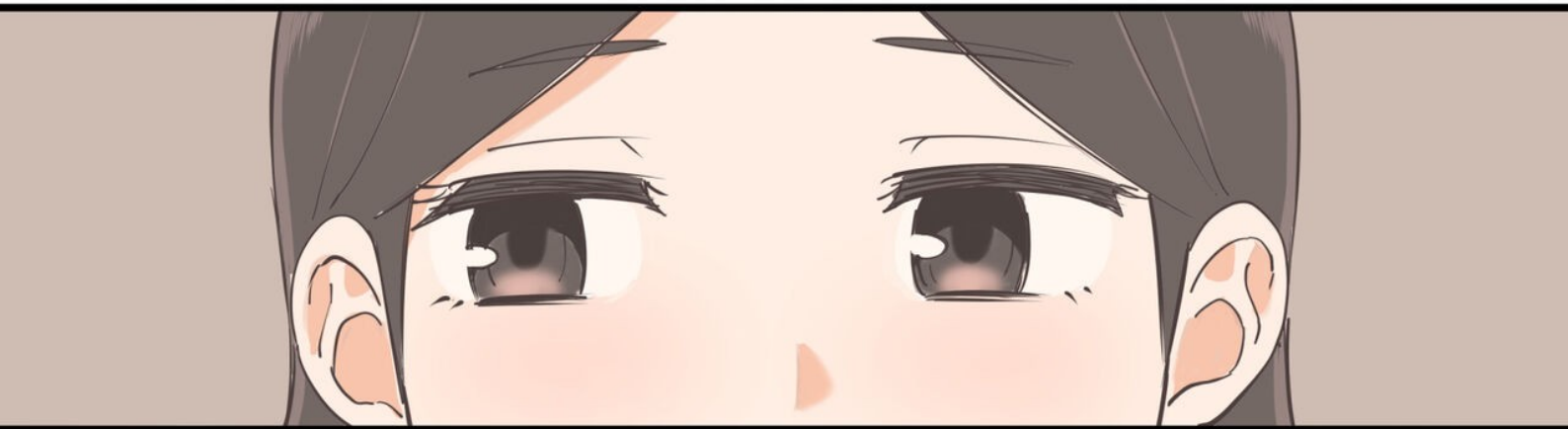
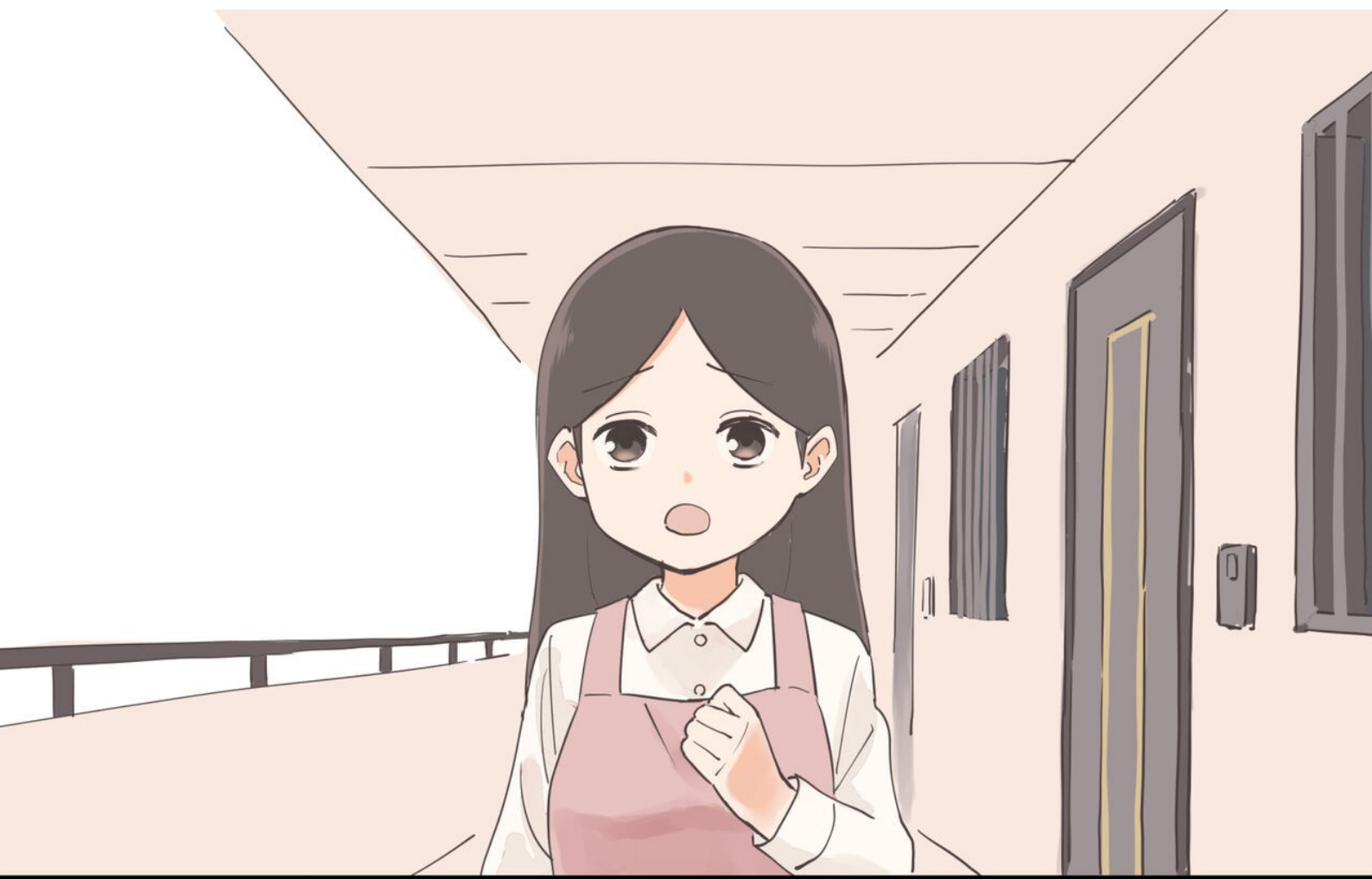
他の男の精液を垂らしながら
旦那の隣に横たわる彼女の姿を
ボクはしっかりと目に焼き付けた

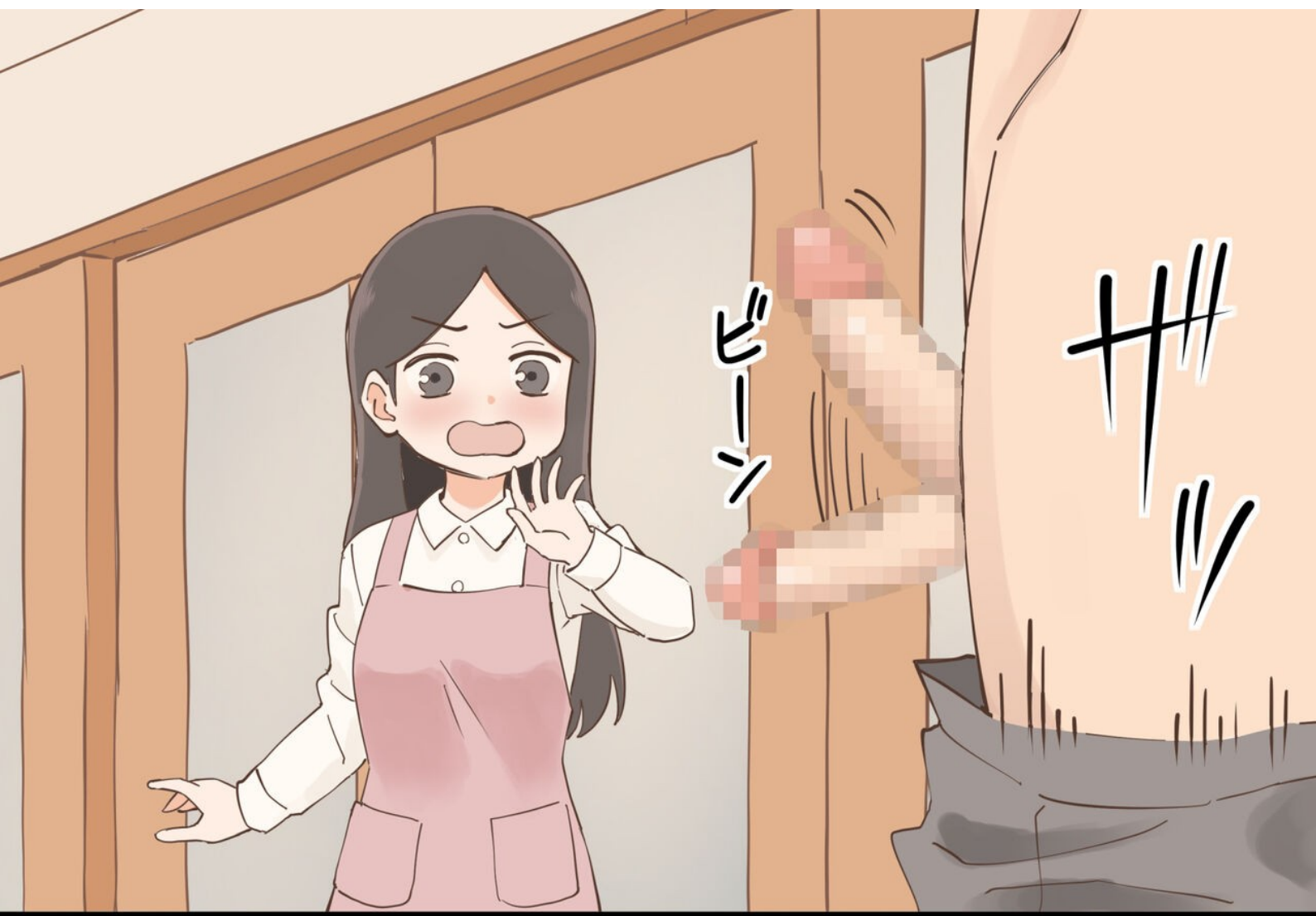
自分以外の男に乱されまくった
妻のすぐそばで
旦那はぐっすり眠り続けていた

いや、もしかすると起きていて
ボクたちのセックスを
覗いていたのかもしれない…

そう考えたらまた股間が
熱くなった

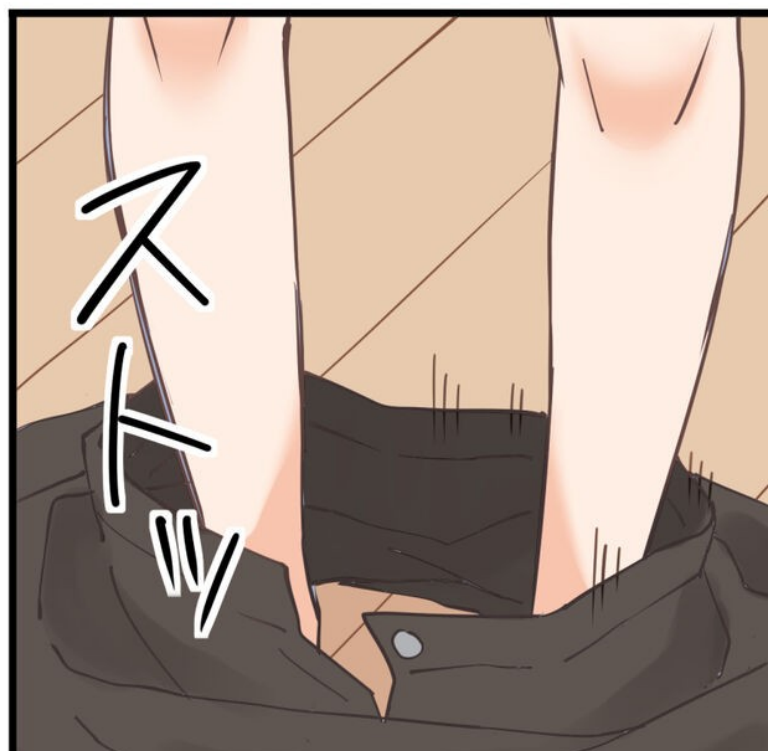








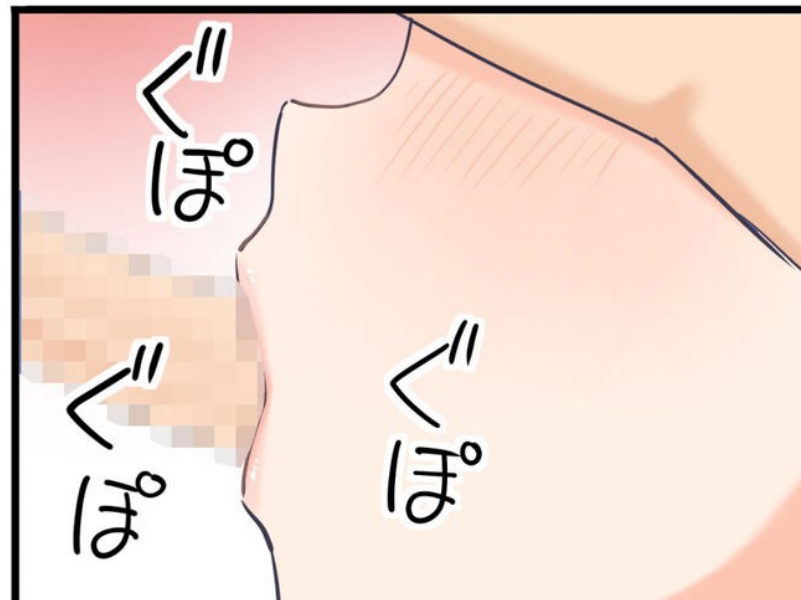
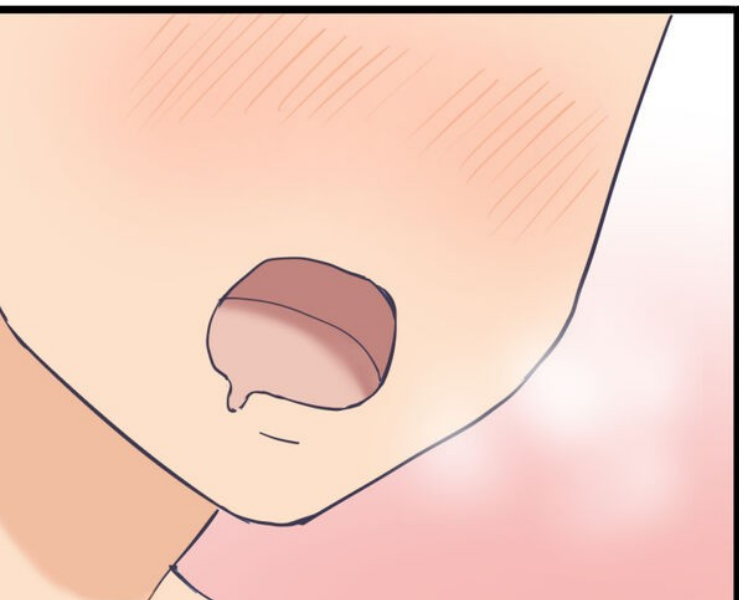
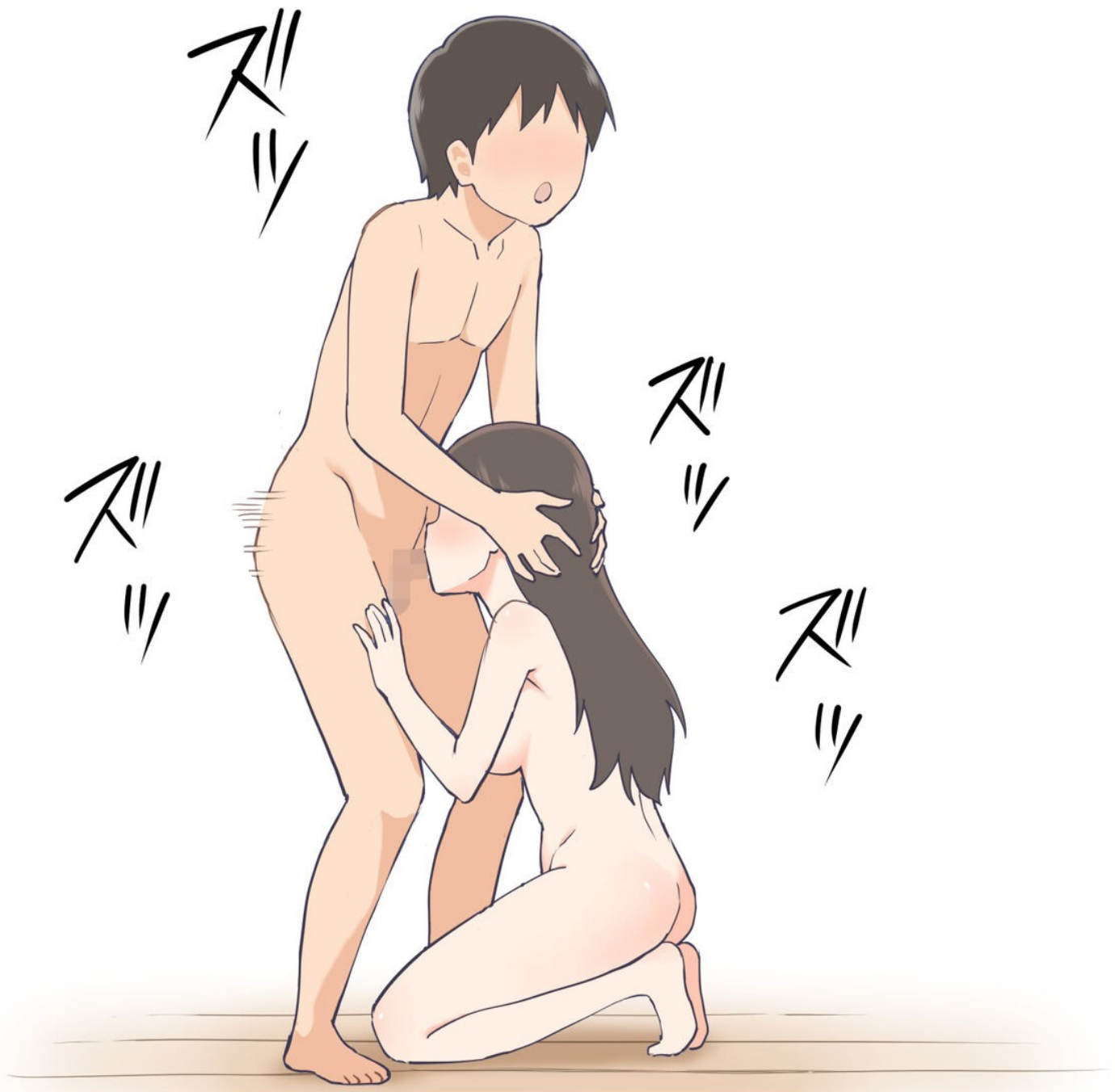
ズルズルズル...

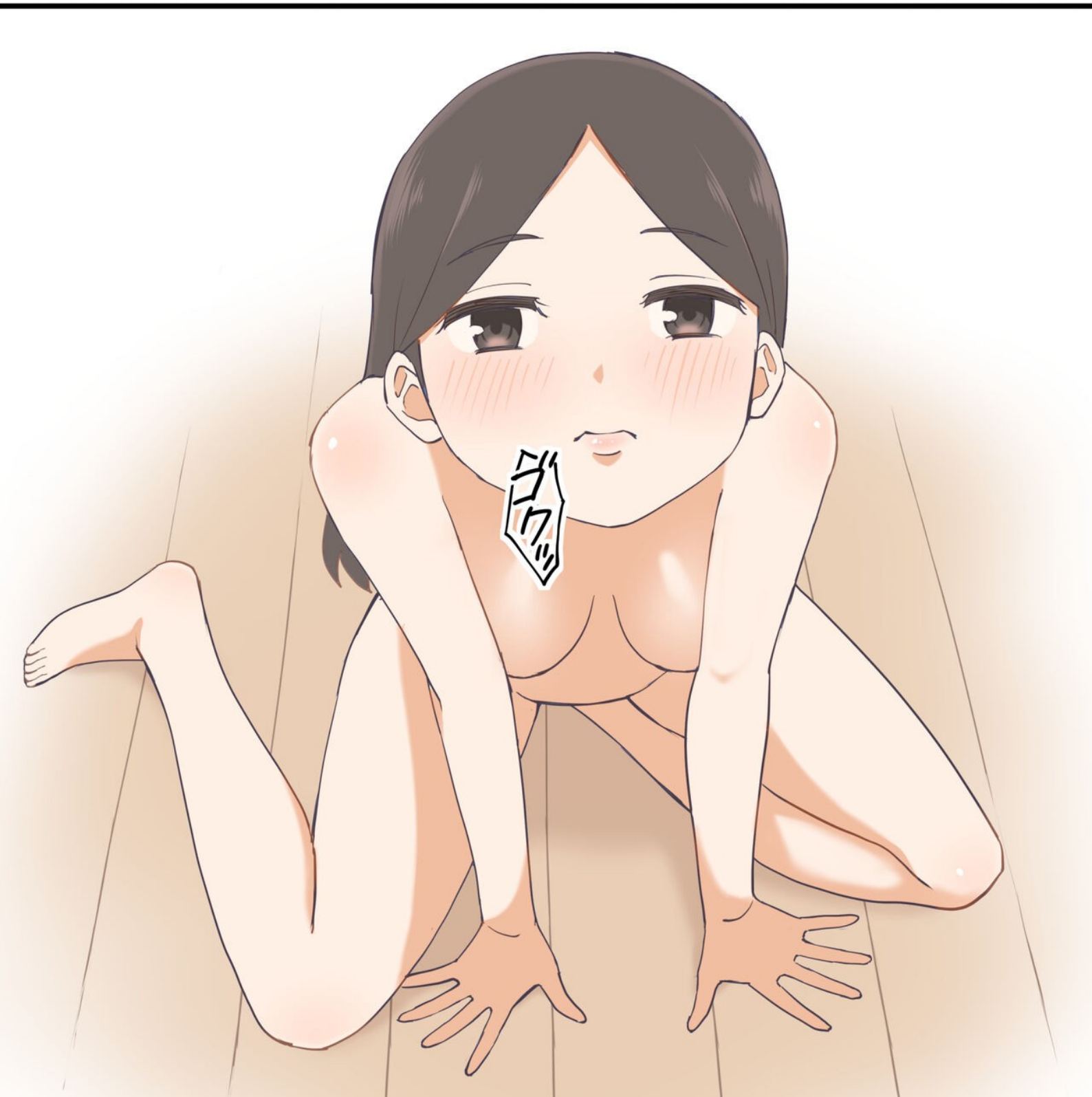


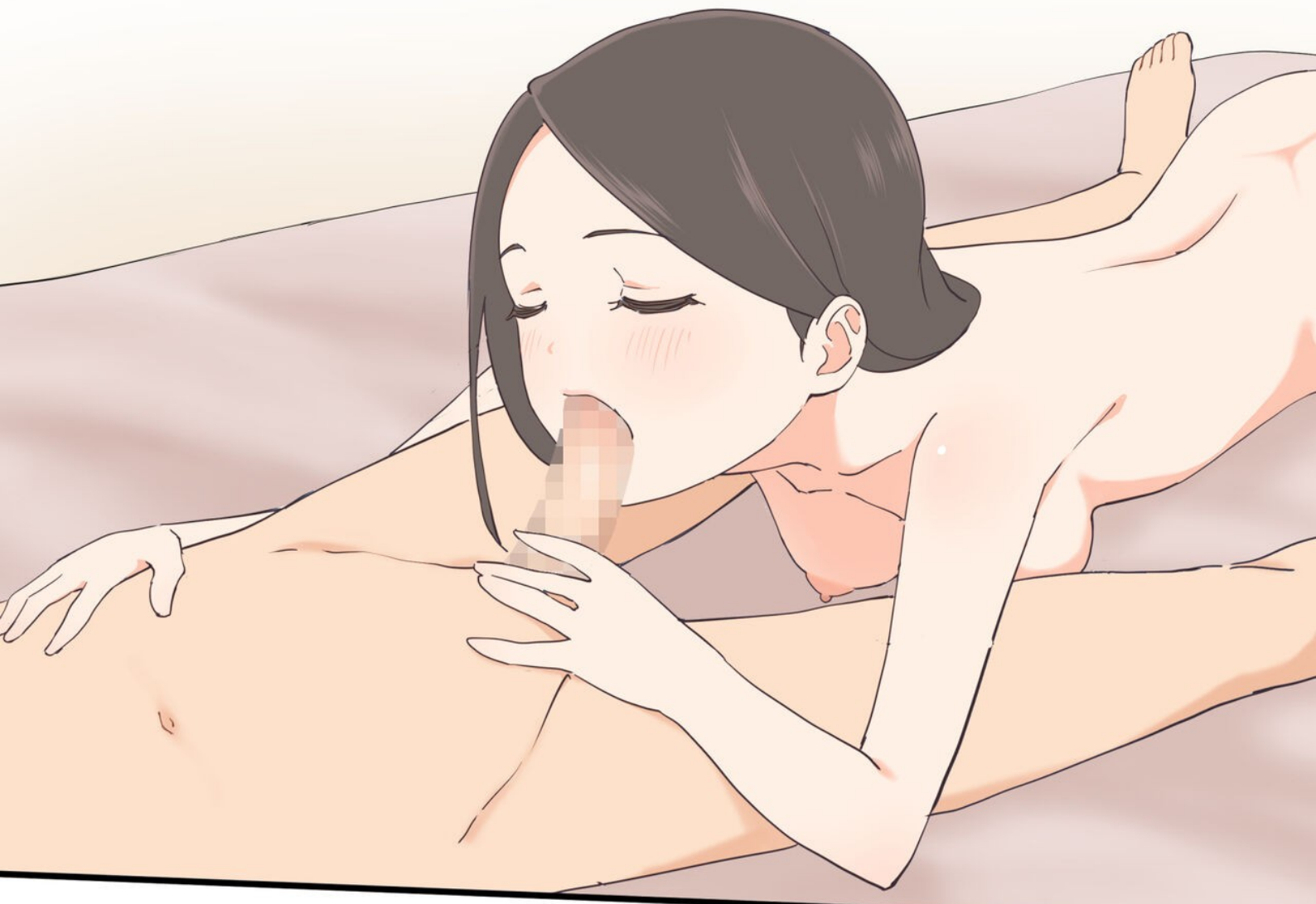
ズ
ツ
ツ



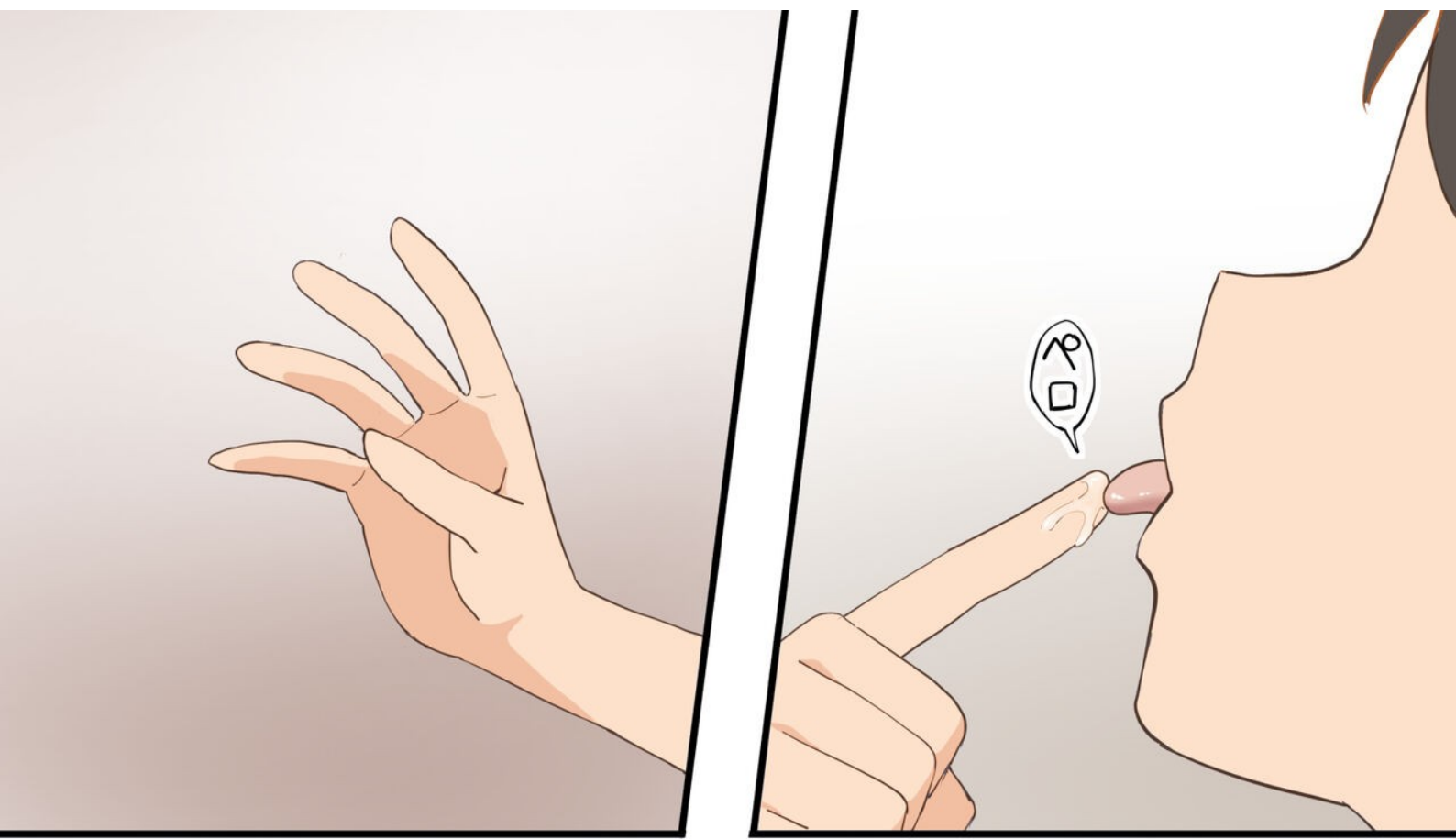


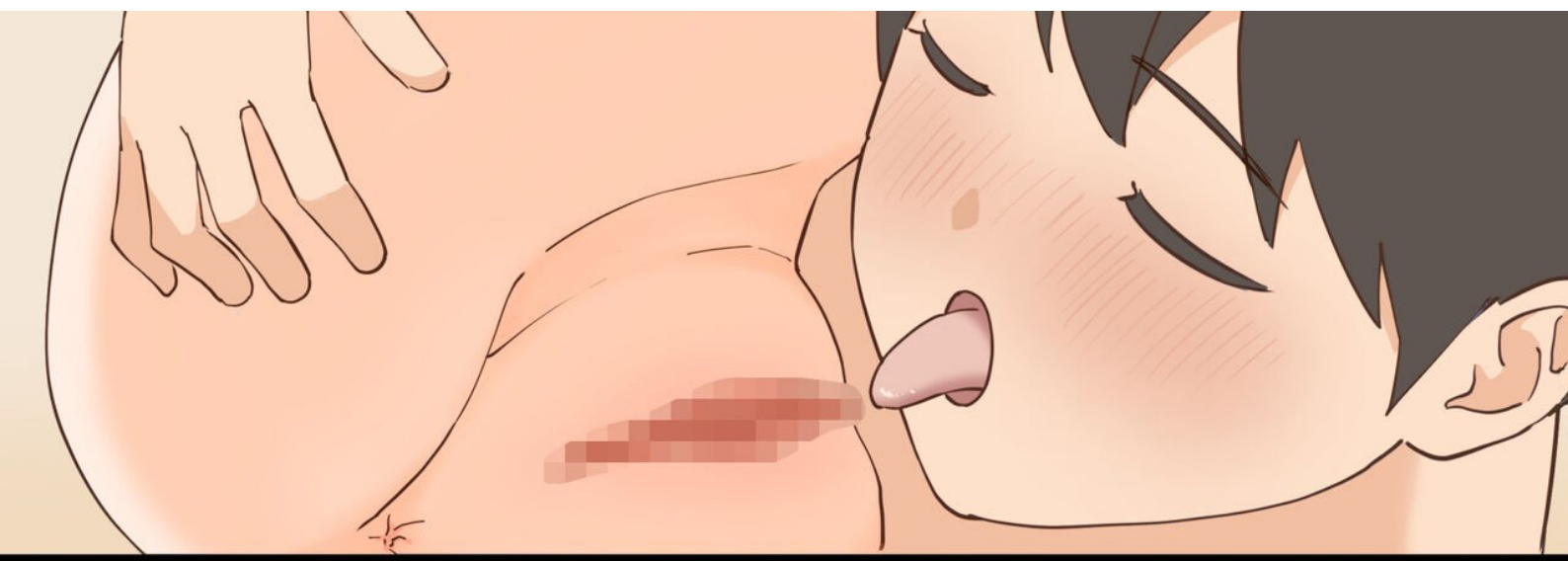


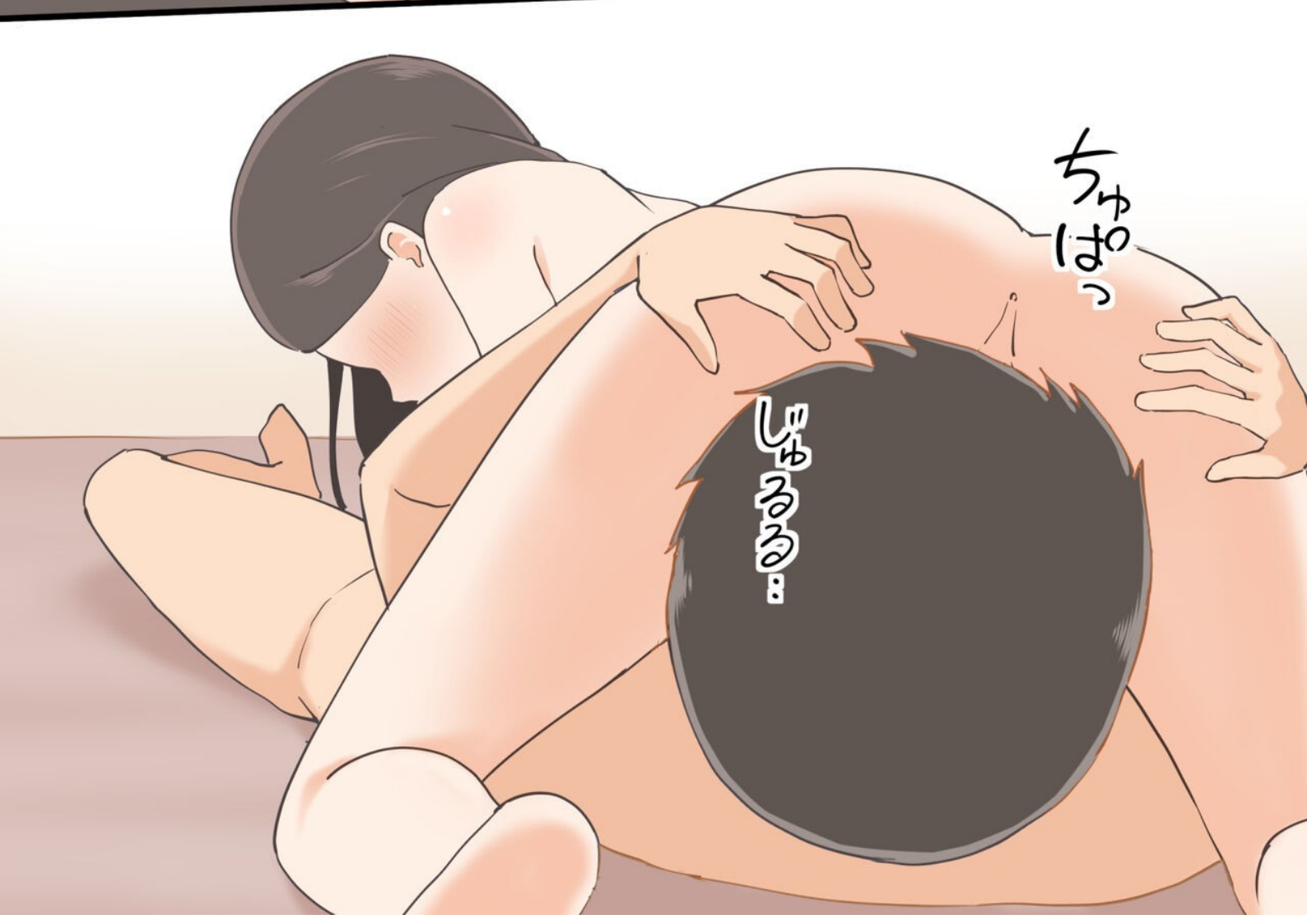
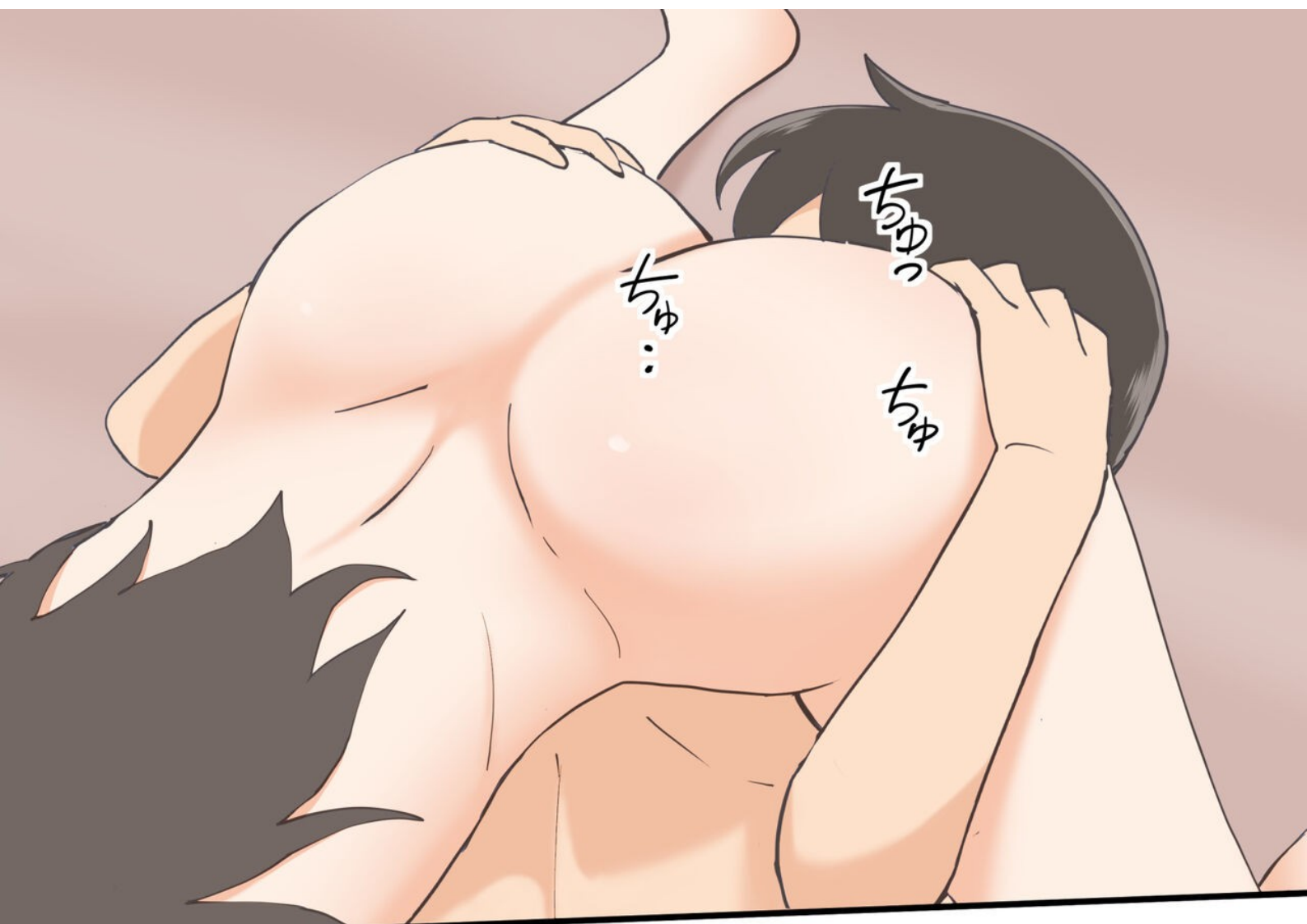


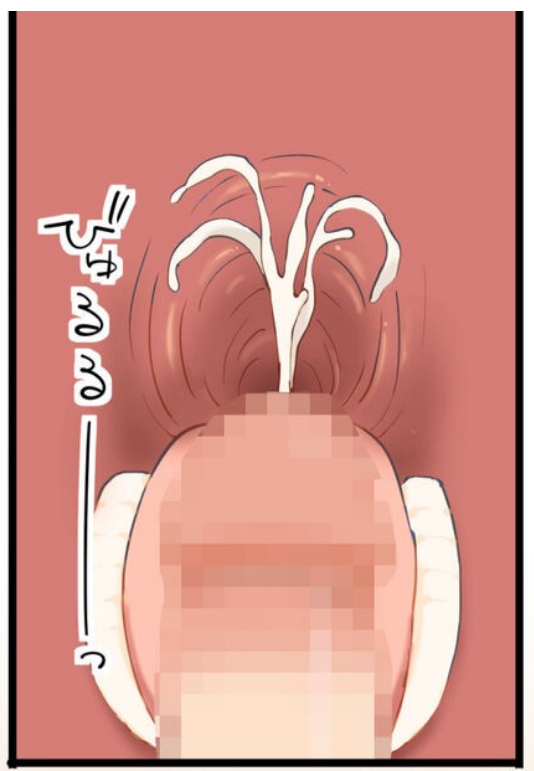


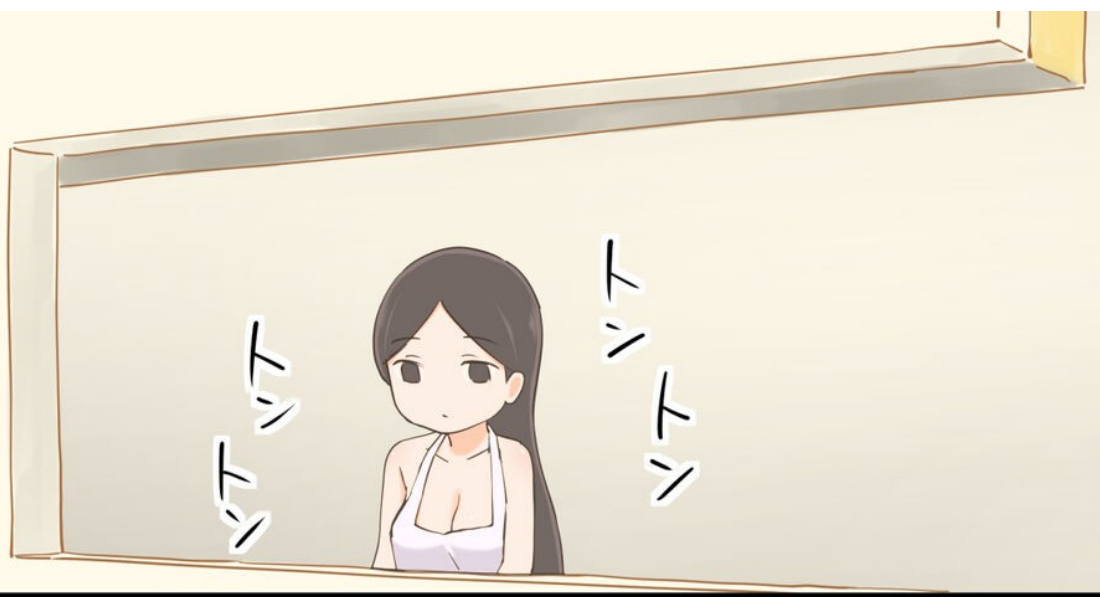












あ...
あ...♡



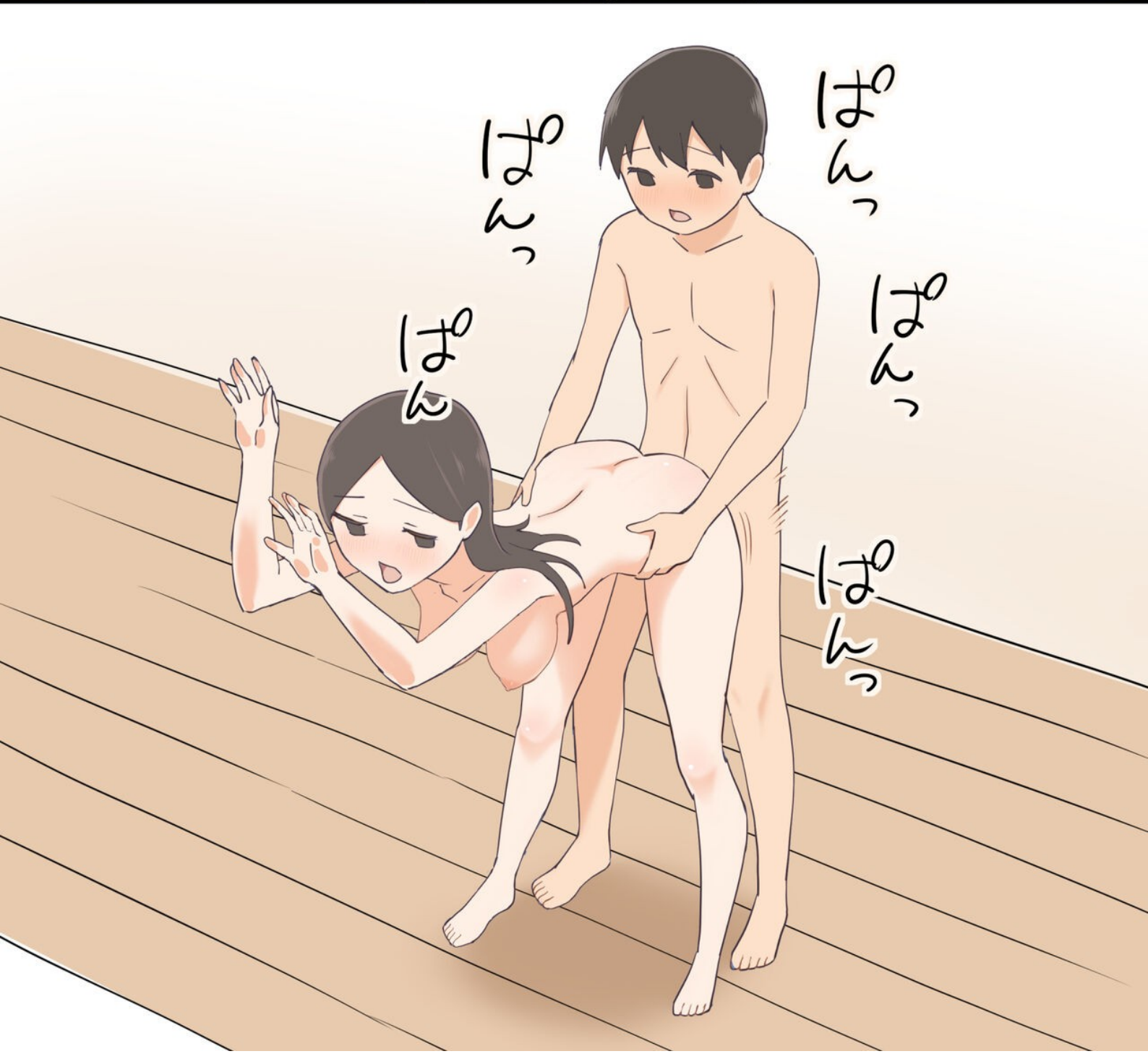
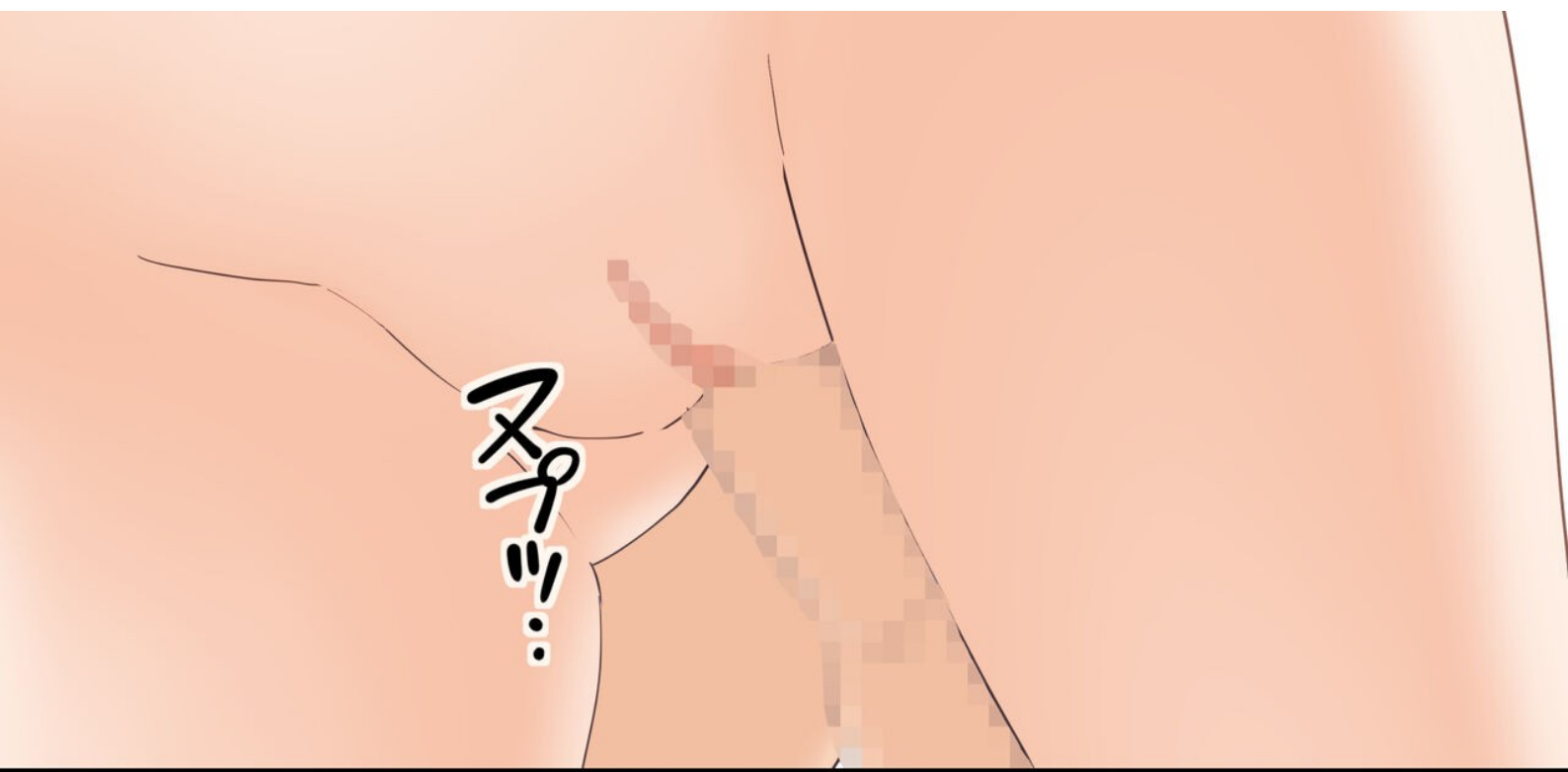
ぽん

ぽん

ぽん











ほんっ

はっ

はっ

はっ
はっ





